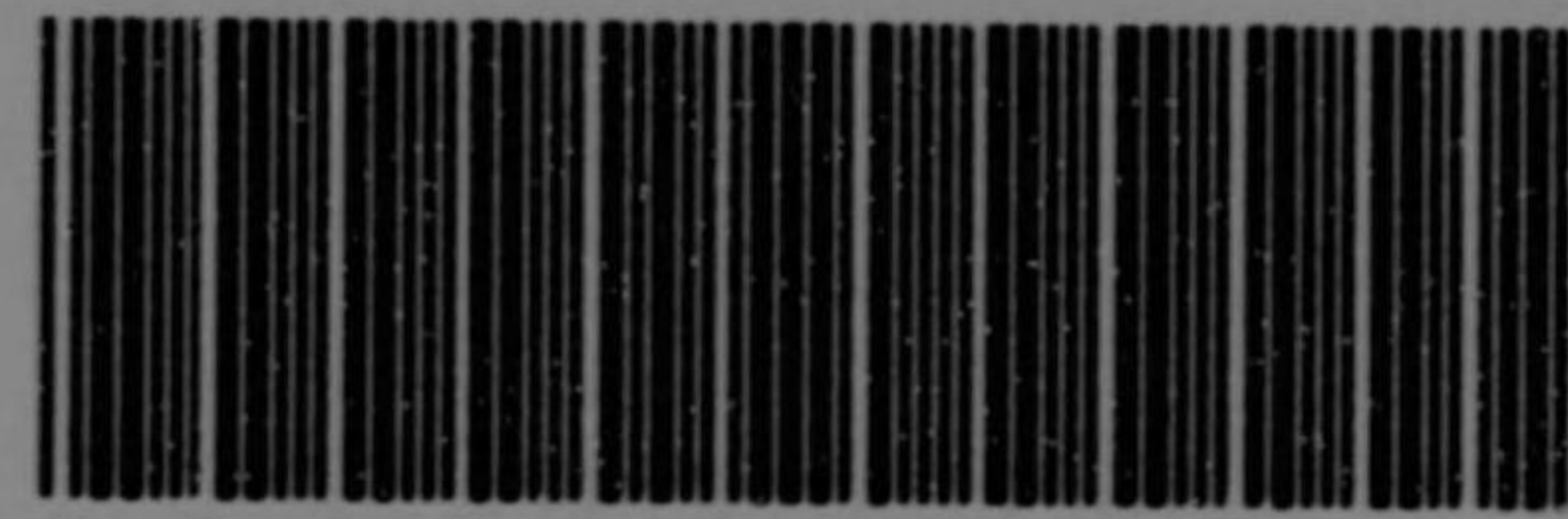


783
405

新体制の本義と実践
緋田工著



* 0004750000 *

1

0004750-000

783-405

新体制の本義と実践

緋田工・著

新光閣

昭和15

ABC

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年3月2日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するもので

781

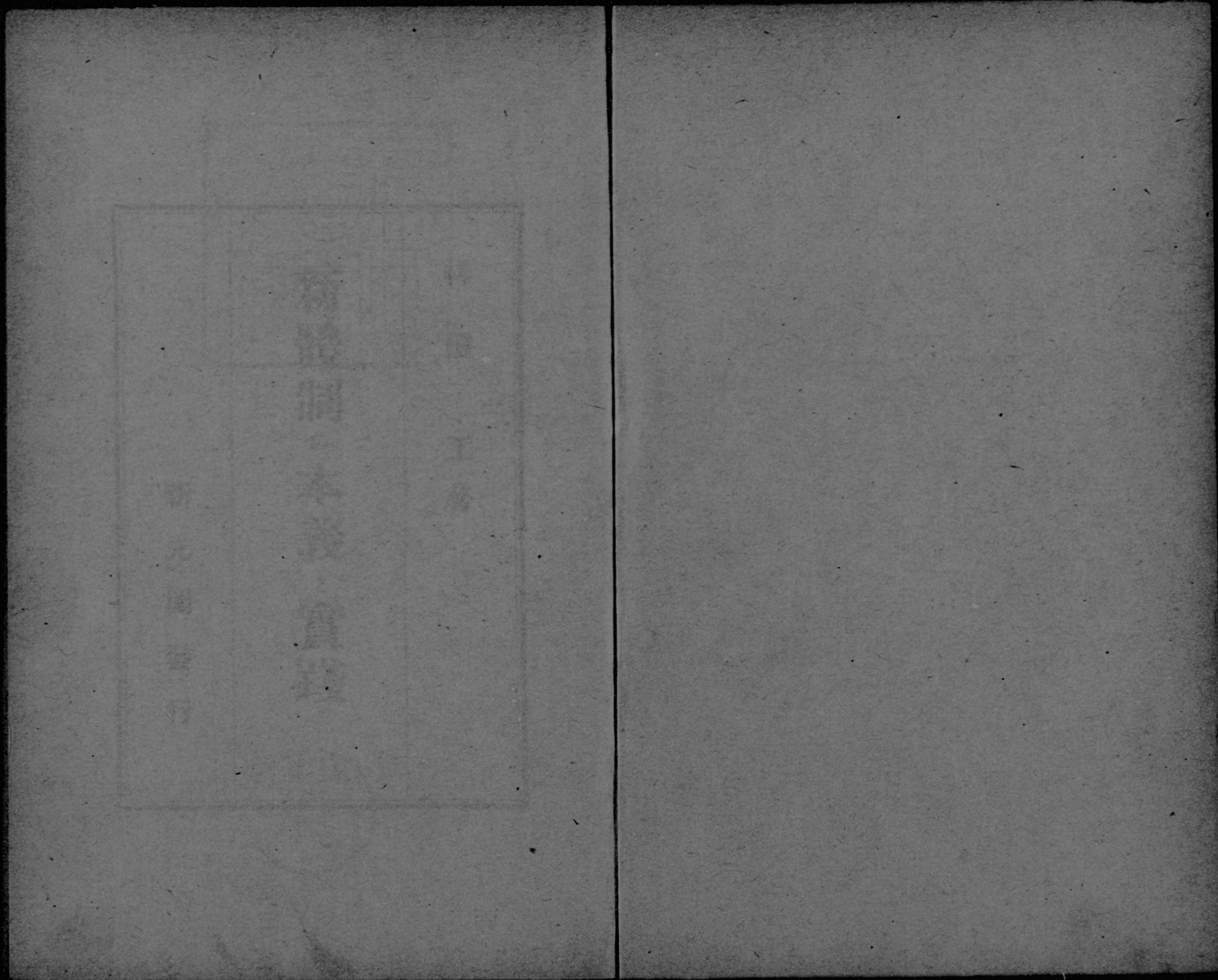
義本の制體

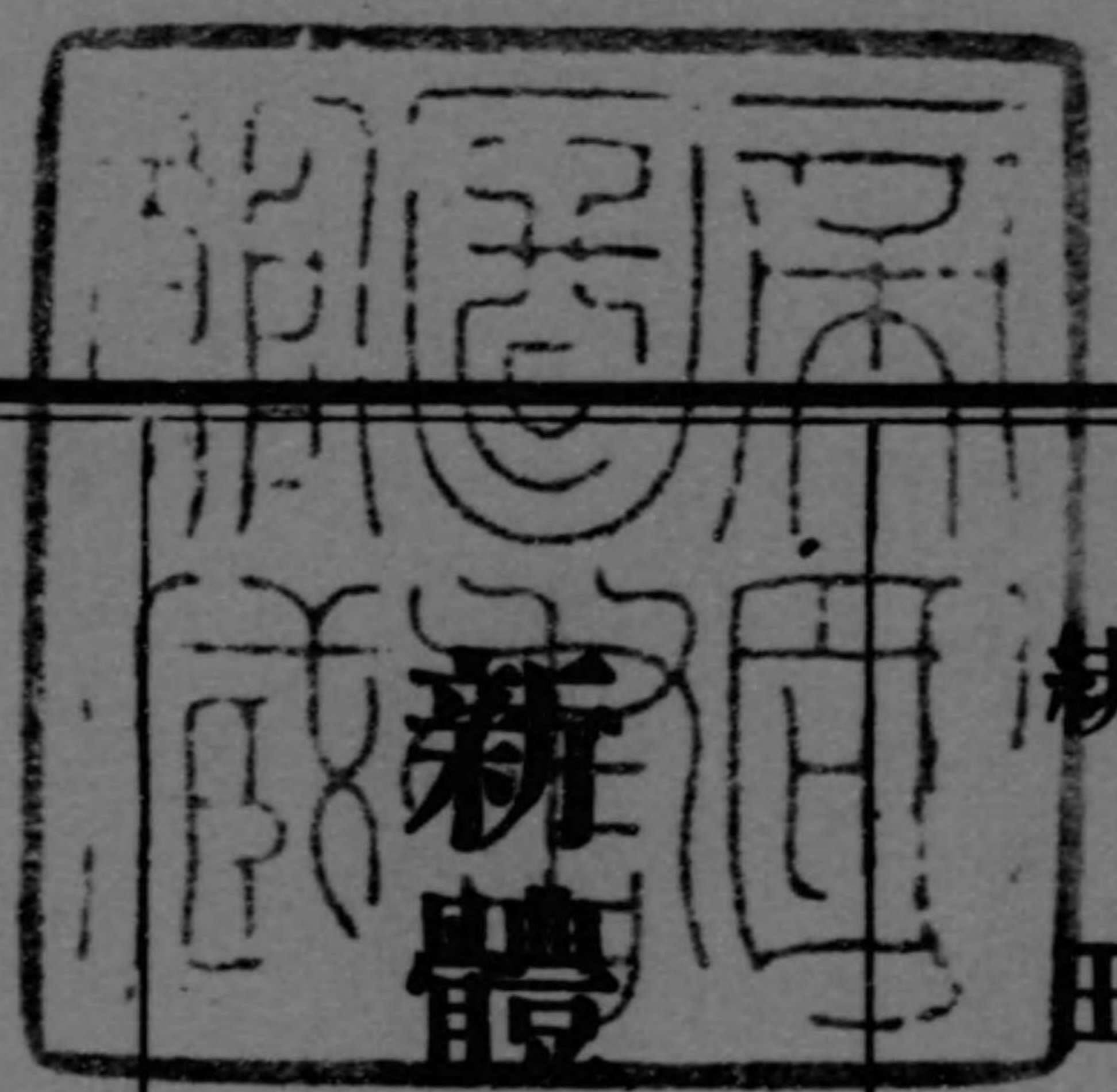
78
E
10

と實踐

緋田工著

新光閣



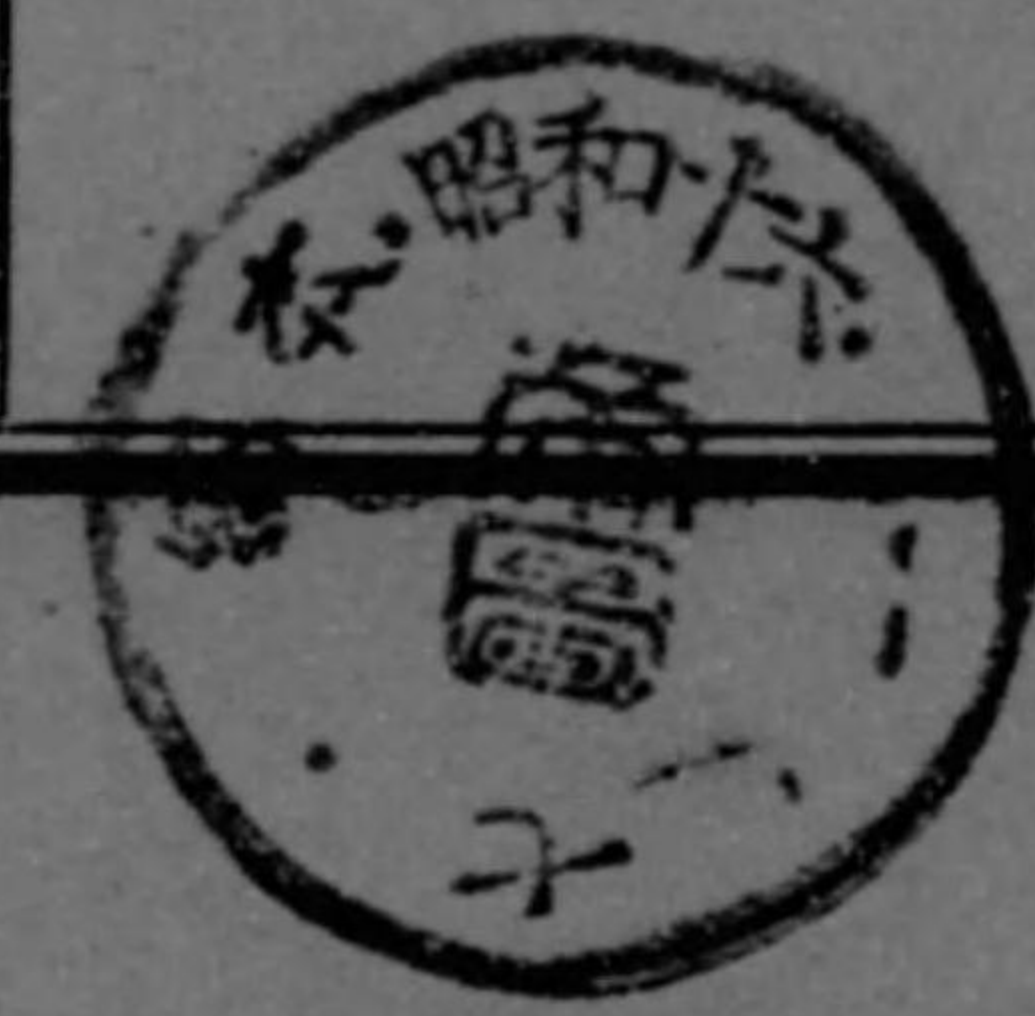


林田

工著

新體制の本義と實踐

新光閣發行



783
405

はしがき

世界は今、自由主義の舊體制を脱し、協同體的新體制を建設するために一大戰國時代を演出してゐます。舊體制を手早く克服し、新體制を上手に作り上げた國が次の世界の優者になるものと考へられます。日本は大東亞新體制の指導者たるの實質を樹立するために、一日も速く、まづわが國內に典型的な新體制を作り上げる必要があります。われ／＼の關心は國體本義に立脚して生産の新體制、配給の新體制、消費の新體制、政治の新體制、教育や社會施設の新體制、生活の新體制等々を建設することに注がねばなりません。精神の問題ばかりを神懸りのやうに強調するのでもなければ、制度や機構の改革ばかりを問題にするのでもなく、純乎たる日本固有の精神に立ちつゝ、日本の國情に適した世界最新の體制を一日も速く、吾々自身の手で作ります、これが吾々の新體制に對する心構でなくてはならぬと思ひます。

本冊子は筆者が最近、千葉縣某町の「大政翼賛講演會」において口述した講演速記に筆を

加へたものです。この頃、新體制々々の呼聲は巷に高いが、徒らに組織や形式の問題ばかりが喧傳せられ、世界史の大勢に對する指導や、新體制の歴史的必然性並に新體制に對する各業者の心構などについての啓發が甚しく不足してゐる感がある時、本冊子が少しでもその闡明に役立ち、それによつて新體制への「下からの盛り上り」が幾分でも正しく促進せられるならば、筆者の悦、これに過ぐるものではありません。

昭和十五年十二月

緋田工

目次

一 新體制と舊體制	五
二 新體制と明治維新	一〇
三 三國同盟を巡る國際狀勢	一四
四 第二次歐洲大戰の意義	一七
五 戦後の獨逸と極東	二〇
六 獨逸の新體制	二三
七 支那事變の本質とその解決方法	三五
八 南進政策の本義	四七
九 米國の對日壓迫とその波紋	四九

十	官僚統制と民衆の役割	五二
十一	「闇」に對する反省	六〇
十二	新體制と國民の身拵	六三
十三	翼賛會と新體制	六六
十四	公益優先と私益	六八
十五	「下から盛り上る」新體制	七三
十六	商人の新體制	七五
十七	工場の新體制	八〇
十八	農業の新體制	八二
結語	時艱克服の鍵	八五

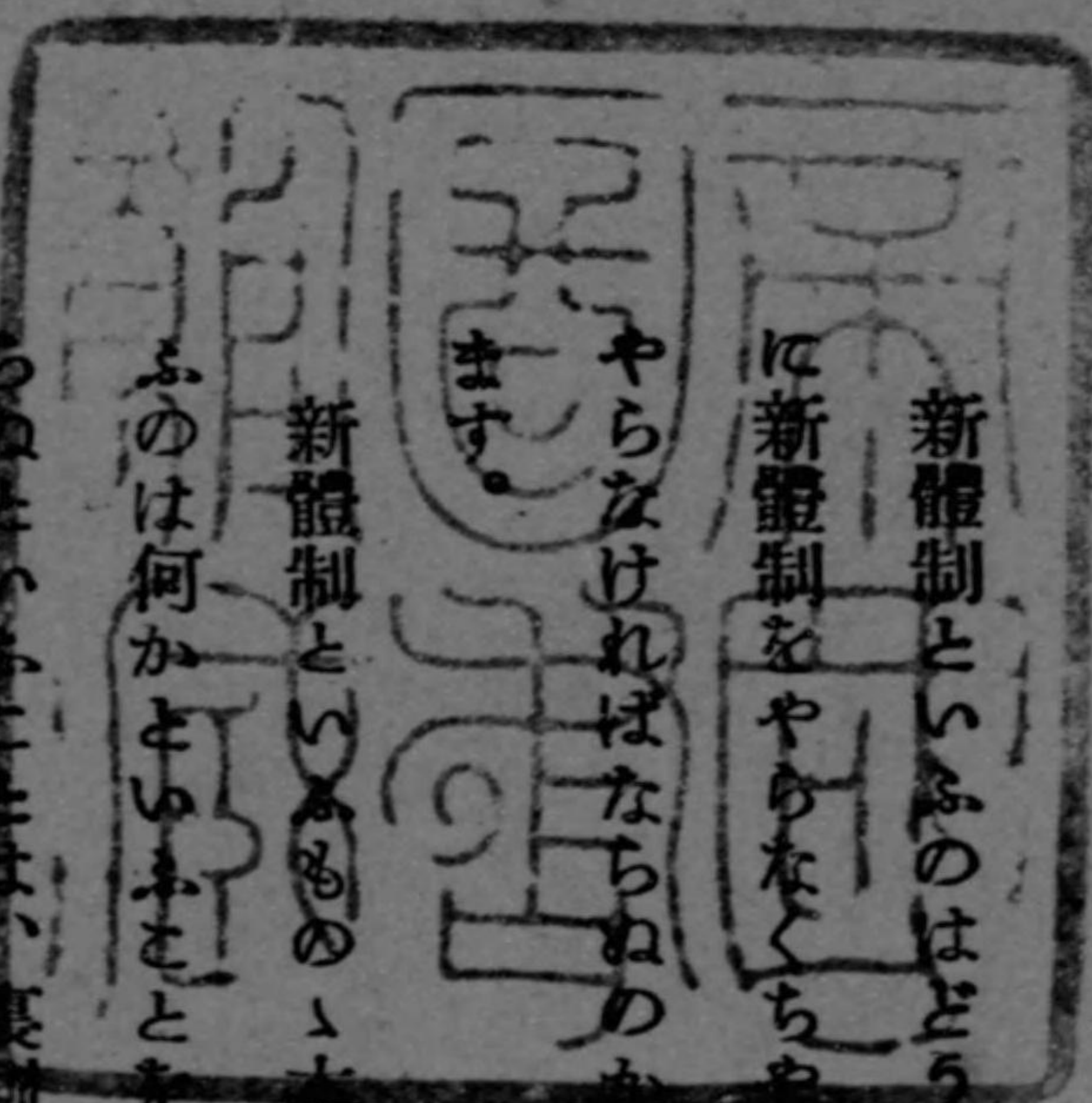
附 新體制に對する誤解と正解

一	はしがき	八九
二	抽象的と具體的	九一
三	新體制と「赤」	九三
四	新體制と憲法	九九
五	新體制とナチス	一〇一
六	新體制と私益	一〇四
七	新體制に對する誤れる期待	一〇七
八	新體制と國民の自主制	一一〇
九	「下意上達」の本義	一一四
一〇	新體制と大衆組織	一二七
結語		一二〇

一 新體制と舊體制

新體制といふのはどういふことか、又どういふことをしようといふのか、同時に何が故に新體制をやらなくちやならぬのか、又國民の一人々々が新體制についてどういふことをやらなければならぬのか、さういふことについて大體の輪廓を御話申上げて見たいと思ひます。

新體制といふものゝ本質を知るためには、その新體制といふ言葉の裏側即ち舊體制といふのは何かといふことを調べてみねばなりません。即ち新體制を今日本がやらなくちやならぬといふことは、裏側からいふと舊體制ではいけなくなつたから體制を變へようといふことになります。即ち今迄やつて來た在り來たりの政治のやり方、經濟のやり方、生産のやり方、配給のやり方、或は消費生活のやり方では、現下日本の時局を乗切り難いから、建前を變へて新しいやり方にしよう、もう少し合理的な、もう少し能率的な立派なやり方にしようといふので、新體制の呼び聲が出て來たのであります。それを近衛さんが代表せ



られて、何とか一つ巧くやらうといふので盡力して居られるわけです。さうして見ると、新體制を知るためにはまづ、舊體制といふものはどんなものか、そしてそれは何故いけないのかといふことはつきりと調べてゆかないと、新體制でなくちやならぬといふわけが、はつきりと判つて來ないことになります。

今日迄やつて來た日本在來の經濟體制、産業體制、配給事業や消費生活の體制といふものは、果してどういふものであつたかといひますと、一口に云ひますと、「自由主義の體制」といふことになります。即ち金儲けを中心にしきまして、何をすれば巧く儲かるだらうか、何をしたらならば自分の財産が出来るだらうかといふことを考へる基礎にして、國家の爲に物を生産するのでもなく、國家の爲に物を配給するのでもない。又一億の同胞の爲に仕事をするのもない。自分のため、自分個人のために日常生活をやるといふのが在來の體制、即ち舊體制であります。個人主義、自由主義の社會經濟體制といふものはさういふものであつて、總てのことを自分の懐工合といふものから割出す。國家の立場、國家の利益、國家の面目といふやうなものが一番の動機になるのではない、自分の利益、自分の家庭の利益、自分の組合の利益、自分の選挙區の利益といふやうなものを中心にして

ものを考へるのであります。固よりこの體制は、曾て六、七十年の間、日本の國を發達させるために役立つて來たのでありますから、曾てに於ては有益な役割もして來たと云へるのであります。然し今日以後、それをそのままやられては國家が困る。今日の時局下において、各個人が國家の立場を忘れて自分の利益ばかりを考へてやられたのでは、全く國家が成り立ちません。そこで、何とかして自分自身の利益を先に考へないで、國家の立場といふものを第一義として考へて貰ふやうな新體制を取らなければならぬといふので、從來の自由主義や個人主義のやうな舊體制を變へたいといふことになる。かういふ次第で、舊體制を止めて新體制にするといふことは、いはゞ自由主義の體制を止めて違ふ體制に改めるといふことになります。要するに自由主義の舊體制ではもうこの時局を打開することが出來ない、同時に又個人主義のやり方では日本は東亞の盟主になれない、斯ういふわけで新體制が要求せられるわけです。

それでは、さて自由主義を止めてどういふやり方にするかといふことになるのであります。抽象的に申しますと、自由經濟體制を克服した經濟體制は計畫經濟の體制であります。生産も配給も消費も計畫的にやるといふやうな計畫經濟が問題として取り上げられね

ばなりません。同時に個人々々がばらばらな考で、自分の懐工合ばかりを先に立て、國家の利益と喰違つたり、國策を蹂躪したり、社會に迷惑をかけたたりしないで、一億の國民が國家的に組織的に仕事をして行かう。皆手をつないで協同的にやつて行かう、といふやうな考へ方にならねばなりません。個人主義的な社會經濟體制が改められると、全體と個人とがよく調和のとれた組織的な社會經濟體制が採られることになります。即ち經濟の制度から言へば、自由主義的なものから計畫主義的なもの、社會の體制から言へば、個人主義的なものから協同體的なものに向つて、ばらばらから組織的なものに向つて、これからの世の中は進んで行くのであります。それが舊體制より新體制へといふことになります。

世間の人の中には今、日本は戰爭して居るから一時的に經濟統制、計畫經濟をやつて居るが、戰爭が濟んだならば又元に戻つて來るのぢやないか、自由主義的經濟に歸つて昔のやうになるのであらうといふ風に考へてゐる人があるやうです。然し私共の見るところでは、決して今の戰爭が濟んだならば、元に戻つて又自由經濟の舊體制になるといふやうなことは絶対にあり得ないと思ひます。この事變で社會の萬般が根本的に一變するのであつて、事變が濟んでから後返らうと思つても、後返れないやうに社會體制の基礎が一變してしま

ふものと私は觀察します。

世間の人の中には、新體制は近衛内閣の政策であつて、近衛公が退かれたならば又、政策が一變してしまひ、新體制は主張されなくなるのではないかといふ風に見てをる人もあるやうです。然し、新體制といふ言葉はともかく、その實質は決して不必要になるものはありません。なぜなら新體制は、時局の解決から見ても必然的なものであつて、いやが應でも實現しなければならぬことだからです。

二 新體制と明治維新

新體制といふ問題は、丁度徳川幕府の舊體制が潰れて明治維新の新體制になつた時と同じです。明治維新の新體制は決して徳川幕府の舊體制に後戻りはしなかつたやうに、今度の新體制も將來決して後戻りはしない。今度の新體制運動で現在の政治體制も經濟體制も、社會體制も根本的に一新せられるものと思ひます。暫らくこの儘でちつと待つて居れば、又自由主義經濟に後戻りするだらうと考へて、荏苒と日を過してはいけません。世界の動きを見てをりますと、世界のどの國でも、全ての國が今や舊體制を捨て、新體制を取らうとして居ります。即ち今、世界は全然面目を一新した新秩序に生れ更らうとしてゐるのです。極東に於ては東亞の新秩序（新體制）、歐洲に於ては歐洲の新秩序（新體制）の建設を目標として人類の文化が今一變しようとして居ます。曾て中世紀の封建的な文明から近代文明、個人主義文明の時代、自由經濟の時代に推移した如く、再び又、世の中の文明が根本的に一變しようとして居るのです。人類の歴史が十五、六世紀から十八、九世紀

に移つたと同じやうに、十八、九世紀から二十世紀、二十一世紀の文明に向つて、今大きな變革を遂げようとしてゐるのであります。中世が近代になり、近代が次の時代になるといふ歴史の大きな轉換期が起つて居るのです。そしてさういふ大きな變革期に當り、日本はその變革に對して指導者の役割を引受けるか、或は逆に世界の時勢遅れになつてしまふかといふ、その大切な處に今の日本は立つてゐます。そこで日本國民は世界文化の指導者になるために、一日も速く新體制を實現して、人類の歴史の先に立つて進んで行かなければならぬと思ひます。さういふ事情により、戰爭が濟んだならば、人類の歴史はすつと先の方に進んで居るのに、日本だけが又後に戻るやうな馬鹿なことが出来るものでありません。むしろ一度び前に進んだ限りは、斷じて後戻りしないで、外の國よりも常に先端を切り、他の國を指導して行くのでなければ、日本は東亞の指導者、世界の指導者にはなれません。今歐洲に於てはドイツが中心になつて歐洲の新體制を指導しようとして居るが、日本は極東の新體制、世界の新體制を極東に實現しなければならぬのです。今の世界はいはば戰國時代です。丁度足利の室町幕府が倒れて、世の中が戰國亂世と化し、やがて織田信長が現れて天下を統一した如く、今の世界の織田信長になるのは誰かといふ時勢です。こ

の時勢に當つて戦國の古い體制を克服し、新しい統一體制を實現する爲に、歐洲に於てはドイツ、極東に於ては日本が大きな役割を演じなければなりません。要するに混沌たる戰國時代を克服して、新しい文化に立つ新しい體制を實現する爲に、日本は独自の國體と、日本固有の本領に立脚して一大事業を建設しなければなりません。ドイツはドイツの精神に立脚して歐洲の再建、歐洲の新體制をどこにも負けないやうにやらうと努力してゐます。だから日本も一度び新體制になつた限り、後に戻るのではなくて、新體制の上にも更に新體制、更に新々體制と進んでゆかなければなりません。故に、皆様が從來生産生活について、或は配給生活について、或は消費生活について、或は農村生活について、或は都會生活について持つてをられました舊い經驗や知識は今後、日に／＼舊くなり、そのまゝでは役に立たなくなる傾向がひどくなります。即ち、從來の自由主義的な教養や經驗は、時勢遅れにならうとして居ります。古い知識や、古い經驗や、古い權利などに拘泥して居ると、却て自分自身がその爲に没落し、自分自身が時勢に取り残されるといふやうなことになります。例へば徳川幕府が倒れて明治維新が實現いたしました時に、徳川幕府時代の頭、即ち古い頭、古い道徳、古い知識で徳川幕府中心の經濟を考へたり、政治を考へたり

して居ると、知らぬ間に明治維新が實現してしまつて、自分は賊軍の側に廻らされてゐる。明治の新體制に取り残された人々の中には、さうした事例が少くなかつたのであります。それと同じ性質のことが、今の日本にも生れて來ようとして居ります。それが目の前に迫つて居る感があります。舊體制に餘りに拘泥し、舊體制に自分の足を縛りつけて居ると、世の中に取り残されて、氣が附いた時には非國民だと云はれ、いはゞ賊軍だと言はれて、うだつの上がらぬやうなことになります。だから斯ういふ時世には舊い頭を捨て、心を清らかにして、時世と共に進むといふ心境が必要であります。この頃よく昭和維新といふ言葉が使はれ、第二の明治維新といふ言葉が使はれます。日本は今それ程大きな變革、夜明け前に相當して居るのです。さういふ見地から新體制といふものを觀察する必要がありません。

三 三國同盟を巡る國際狀勢

そこで次には内外の時局の大勢を申上げて見たいと思ひます。歐洲大戰の動向、或は支那事變の經過、或はアメリカの日本に對する態度、並にその日本に及ぼす影響、さういふやうな内外の動き、及びそれに對する日本國民の決意がどんなものでなくてはならぬかについて、お話申上げてみたいと思ひます。

去る九月二十七日、日獨伊三國は所謂三國同盟を締結いたしました。三國同盟は、歐洲の新秩序建設を行ひつゝある獨伊と東亞新秩序の建設を行ひつゝある日本とが、互に提携援助を約した同盟であり、いはゞ世界の新秩序、新體制を實現するための同盟であります。では、その新秩序、新體制の裏とも申すべき「世界の舊秩序」とはそもゝ如何なる秩序、體制でせうか。それはやはり自由主義の秩序、體制、個人主義の秩序、體制です。この舊體制を克服するのが三國同盟の仕事です。世界の舊體制が今、どういふやうに壞れてゆきつゝあるかといふと、それを最も明快端的に示してゐるのは、フランスとイギリス

の滅亡です。英國やフランスは自由主義、個人主義文明の祖國であり、宗家です。自由主義思想の本家はフランス、自由主義の經濟の本家はイギリスと申してよろしからう。この意味において自由主義的な思想經濟の本家本元たるイギリスとフランスとが今亡びつゝあるといふのは、世界の舊體制の牙城が亡びることだと申さねばなりません。イギリスやフランスは世界の大地主、世界の大金持です。その國が歐洲に於て貧乏なドイツに亡ぼされるといふ處に、世界の大きな變革の動きが如實に説明せられてあります。即ち自由主義世界の大地主、大財閥たるイギリスが潰れ、自由、平等、博愛の本場のフランスが亡びるといふ處に、自由主義の思想、自由主義の精神が亡びるといふことが端的に示されて居ります。日本のインテリゲンチヤは、明治時代から自由主義の教育を受け、自由主義的な法律學、自由主義的な經濟學、自由主義的な哲學といふやうなものを習ひ、その經驗を積んで今日迄やつて來たのでありますが、その自由主義の祖國である英國、フランスが亡びることになつたのですから、日本の知識階級の頭の中にある學問と、物の考へ方も亦亡びざるを得ません。即ちイギリスが亡びるといふことは、英國流の學問、英語を通じて受けた學問といふものが亡びて行くといふことであります。日本の知識階級の頭の中の教養と經驗

との存在意義が今亡びて行かうとしてゐるのであります。即ちイギリス流、或はフランス流の物の考へ方は今や全面的に没落して行かうとしてゐるのです。でありますから英國が亡びるといふことは、單に英國が亡びるのではない、英國のやうな經濟の體制、英國のやうな外交の仕方、英國のやうな政治の考へ方、英國のやうな思想が亡びて行くのであります。だから日本の國內におきましても、英國模倣の政治の仕方、英國的な外交觀念といふやうなものは今後凋落してしまふのです。

四 第二次歐洲大戰の意義

歐洲戰爭が始まりました以來、私はこの戰爭は短期戦に終つても長期戦になつても、必ずドイツが勝つだらうといふことを主張して來ました。同時に日本の自由主義者達は、英國やフランスが負けさうになつたならば、アメリカは歐洲に參戦して英國やフランスを助けるだらうと申しましたけれども、私は逆に英國やフランスが敗れさうになつたならば、アメリカは歐洲に參戦（歐洲まで出掛けてゆく）するどころか、逆に南北アメリカ洲にある英佛の植民地を横取りするだらうと申して參りました。それと申しますのは、アメリカといふ國は代表的な自由主義の國、利己主義の國でありますから、フランスやイギリスが負けさうになれば助けに行くやうな國ではありません。アメリカのルーズベルトが助けに行くやうな口振りで何度も聲明書などを出しましたのは、英國やフランスは金持だから、最後は必ず勝つと思つたからです。いはゞルーズベルトは見込違ひをやつたのです。とこ

るが、日本の自由主義者の中には、アメリカを大變に強い國だと過大評價してゐる者が多い。だからルーズベルトが参戦するといふのを見て、やはり歐洲へ出掛けるのかと思つたのです。なるほど自由主義の頭で見ると、英佛は金持だから、長期戦になれば必ず英佛が勝つ、この前の大戦の時のやうに勝つといふやうに見えます。だから、ルーズベルトは歐洲まででも出掛けて英佛を支持するらしく聲明したのです。ドイツは獨裁政治で無理な政治をして居り、英國やフランスは自由主義で民衆の自由を尊重してゐる。だから人心が暢達して居る。故にドイツは必ず負けるだらうと彼等は見たのです。これは大きな見當違ひです。今の世界では自由主義の國の方が民心が不安定で、統制主義の國の方が民心が安定してをります。英國やフランスは階級分裂がひどくて大衆が不満を持つて居る。だから民心が安定してをりません。ところが統制經濟の獨逸では、民衆の生活が平衡を得て居ります。だから團結し易い。例へばドイツでは煙草は一人一日に六本しか吸へない、金持も六本、貧乏人も六本です。ところが公平に皆六本づゝだから、國家の爲には已むを得ないことだといふので、誰も皆不平を申しません。不平不満がないから國內は安定して居る。ところが統制經濟でないフランスやイギリスは民衆の間に不平が多くて、民心が安定してゐ

ない。ルーズベルトはそこを見損つたのです。外交の方面を見ましても、ヒットラーの外交は實にうまい。ヒットラーはこの前のカイゼルの失敗を繰返さないやうに、ロシアとイタリーとをちやんと味方につけてゐる。ソ聯とイタリーとが獨逸の側に立つてをれば、バルカンは混亂しません。バルカンを混亂しなければ、獨逸は食糧と石油を安全に入手することが出来る。だから獨逸は長期戦をやり易い。しかも獨逸は壓倒的に優越した空軍を持つてをるので、勝目が非常に多い。かくて私は英國が必ず敗けるものと信じて居る次第です。

アメリカはこの頃、益々英國の味方につきつゝありますが、だからと云つて歐洲へ参戦するものとは私は思ひません。アメリカは南北アメリカを擁護するために英國をそゝのかし、英國の犠牲において獨逸の鋭鋒を少しでも弱めようとしてゐるのです。そして英國が愈々倒れさうになつたならば、アメリカは英國を捨てるでせう。例へば嘗て英國がポーランドやベルギーを利用した上で捨てたやうな手で、今度は英國がひどい目に遭ふのです。

五 戦後の獨逸と極東

今次の歐洲大戰に獨逸が勝つた時に、それがどういふ影響を極東に及ぼすか、その點を研討してみませう。

先づ第一に、歐洲でドイツが勝ちますと、その一番大きな影響を受けるのはアメリカです。すから、その點を一應觀察させよう。アメリカの輸出貿易の半分は歐洲を相手にしてゐます。然るに歐洲の市場は將來獨伊兩國に支配せられますから、自然アメリカの輸出産業は大恐慌に陥らざるを得ません。さうしたことは歐洲ばかりでなく、南アメリカにも、アフリカにも起るでせう。さうなるとアメリカは悲鳴を上げざるを得ない。それではアメリカはかなはぬから、ドイツに泣きを入れて妥協を講じないとも限りません。日本はその點も考へてをかなければなりません。併しともかくもアメリカの立場はこの戦争で苦しくなる。これを頭に置いてをかねばなりません。

次に、ドイツが勝ちますと、ドイツは、御承知の通り世界で一番科學の發達して居る國

です。その科學の力でグン／＼優秀な汽船や軍艦を造り上げ、且つ一絲亂れざる統制經濟の方式で、あの豊富な歐洲全體の資源を利用してどん／＼商品を生産し、世界の市場に乗り出して来る。或は昔日の英國よりもまだ優勢な勢力で世界に乗り出して来るのではないかとも思はれる。若しさうなると日本のやうな自由主義體制の國は太刀打出來ぬことにならぬとも限らないのである。ナチスになつて以後のドイツにおいては、新しい機械の發明があると、それを職能組合の手で直ぐに他の同種工場に傳達するといふやうなことでやつてゐる。こちらの工場が新しいものを發明するとあちらの工場もその通りに改良することが許される。何處に新しいものが發明されても、國家の見地から見て必要となれば、どの工場でもその水準迄上がつてゆくことが出來るといふ状態ださうです。それでありますから今のドイツの産業の發達は脅威的だと云はれてをります。生産を發達させる爲には自由主義に限る、個人主義に限る、人間の慾を刺戟して行かなければ産業は發達しないと云つたのは舊體制のことで、新體制のドイツはもうそんな個人主義に縛られてゐない。かうしたやり方で整然たる政治的統一と、整然たる計畫經濟によつて獨逸が世界の通商戦に乗り出して來るのが三年、五年、或は八年の後ではないかと思はれる。それに對して日本は、現

在のやうな自由主義、個人主義の機構では對應出来ない。固より日本は決してドイツを敵に廻すつもりではありません。三國同盟を中心として相當永く仲良くしてゆくのです。然し商賣のことは又別です。ドイツの商品が良くつて安いのが入つて來れば、ドイツの商品が自然に市場を席捲する。だから、ドイツの産業に負けないやうな生産機構を作り上げる、配給機構を作り上げる、貿易機構を作り上げる、ドイツよりもつと立派な國民組織、もつと立派な政治的統一を作り上げるのでなくては、獨逸と對等の交際が出来ない。私共は今後日本は永く獨伊と提携して進まねばならぬと思ふ。それでなくてはソ聯に當るのに不便だし、アメリカを牽制するにも不便です。だから私は獨逸と仲好くしたいのです。然し、獨逸の家來にせられるのでなくて、軍事的にも經濟的にも獨逸と對等互格の立場において提携してゆきたいのです。

六 獨逸の新體制

今度の歐洲戦争で、獨逸はひどく勝ち、フランスはあまりにもみじめに負けましたが、あれはどういふわけでさうなつたか、それを吾々は分析してみなければならぬ。固よりドイツは優秀な武器を澤山持つてをり、軍事的に強かつたから勝つたのではあります。何故一番貧乏な獨逸があんなに強かつたか、何故あんなに金持のフランスがあんなに弱かつたかと申しますと、畢竟ドイツ民族の世界觀がフランス民族の世界觀に勝つてゐる。即ちイギリスやフランスの考へ方は時代遅れの舊體制的思想で、人類の文化を指導し得ないが、ドイツの思想は人類の文化を指導する進歩的な、いはゞ新體制の考へ方になつてゐる。だから皆さんが歐洲の情勢をよく御覽になれば判りますが、例へばドイツの第五列といふのがイギリスやフランスやオランダやベルギーや米國等の内部に出來て居る。然るにドイツの内部には英國やフランスや米國の第五列といふものは出來てゐない。蘇聯の内部にもドイツの第五列的なものが生じてゐるが、ドイツの内部には蘇聯の第五列は生じてゐない。

第五列と申しますのは敵國の内部からその國を引つくり返す分子のことをいふのでありますが、そのドイツの第五列が英佛などの中には澤山出来てゐるのに、ドイツの中には周圍の國の第五列が出来てゐないといふのは、ドイツの思想の方がフランスやイギリスの思想よりも進歩的であつて、人間の心を掴むものを持つて居る。フランスやイギリスの考へ方はドイツ人の心を掴むものを持つてゐない、時勢遅れであるといふことを物語つてゐるのです。イギリス人やフランス人がドイツ人の言ふて居ることを聞くと、そこにいろ／＼敬へられるものがある。すると、フランス人やイギリス人の中に獨逸に同情したり、味方をしたりする者が生じる。さうなると、イギリスやフランスは獨逸によつて國內を攪亂されることになる。然るに獨逸はフランスやイギリスによつて國內を攪亂されない。ドイツはこゝ數年の間にオーストリア、チエツコ、ポーランド、デンマーク、ノルウエー、ベルギー、オランダ、フランスといふ八ヶ國を押へたのでありますが、これに對して世界の自由主義的評論家達は、「獨逸は非常に無理な獨裁政治をやつて居るのだから、必ずチエツコやポーランドやオーストリア等の占領地帯に内亂が起るであらう。さうして遂にドイツは長期戦に失敗するであらう」と言つたのであります。處がその内亂はまだ何處にも起つて

ゐない。寧ろフランスの如き、逆にドイツと協力して英國をやつつけようといふ方向に廻つて居ります。それはドイツの戦争のやり方が所謂新體制と申しまするか、イギリスやフランスのやり方よりも、ずつと進歩的であるからだと思ひます。例へばフランスをドイツが叩きつけまして、さうしてパリーの都にドイツ軍が入つた時の様子を見ればよくわかる。十數年の昔、ドイツはフランスの爲に恨骨髓に徹するやうな敗戦を致しまして、爾來非常に酷い目に會はされて來たのであります。でありますから、普通で申すと、何とかしてこの恨を晴らしてやらうといふことになり、ひどく亂暴狼藉を働く筈であります。處がドイツの軍隊がフランスの方に入つた様子を色々調べて見ますと、全く驚くべく秩序整然たるものであつたやうです。即ちパリーの都に入城した時のドイツ軍隊は、軍服のズボンに折目をつけて肅々とパリーに入城するといふ状況だつたと云はれます。そして掠奪や暴行をやらない。又女に悪戯などしない。それは全くフランス人が驚く程秩序整然たるものであつたと云はれます。恨重なる敵の帝都に破竹の勢で入城するのに、何等悪いことをしないで、秩序整然と入城したといふ歴史は世界の歴史にあまり數多くはないのぢやないかと思ひます。尙又、ヒトラーは、フランスの占領地帯に獨逸の利權屋を一人も入らさな

居ることが、戦争を有利にするに役立つものと考へます。即ちドイツの戦争の仕方は自由主義、帝國主義、侵略主義ではない。歐洲を新しいブロックにして、公益經濟と申しますか、日本が大東亞共榮圏といふのと同じやうに、歐洲の共榮圏といふやうな意味で、歐洲全體を協同的に固め、ドイツがその中心となつて新しい政治經濟をやるのだといふやうな建前で戦争をして居ます。だから、さういふやうなことなら誠に結構ぢやないか、さういふやうな新しい制度を取るといふのであるならば、自由主義の行詰りは清算されるだらう。さういふ結構な氣持ならば、獨逸をそんなに目の仇にしなくてもよからうといふやうな考へを持つ者が生じて来る。さういふわけで獨逸はあんな鮮かな戦争が出来るのであります。ドイツは優秀な武器を持つてゐたから戦争に強かつたといふことを言ふ人がありますが、成る程優秀な武器を持つて居る。最近ドイツから歸つた人から今のドイツの機械工業の有様を聞いて見ますと、實に驚くべく機械工業が發達してゐる。よくも斯んなことが出来たものだと思ふ程發達して居る。例へば飛行機ですが、ドイツの現在の飛行機の製作力といふものは、イギリスとアメリカの兩國が一緒になつても及ばないほどの力を持つてゐる。アメリカの飛行機産業を今後五ヶ年に年産五萬臺にまで擴張したいといふのがル

ーズベルトの計畫であります。然るにドイツは今、一年に五萬臺位作る能力を持つて居ります。随つてイギリスとアメリカの兩方を合せましても、今のドイツの航空機製作能力には及ばない。性能に於ても、數に於ても及びません。世間にはアメリカの飛行機産業が世界一に發達して居るやうに思つて居る人がありますが、現在のドイツは完全にアメリカを追ひ越してをります。最近世界の飛行機産業を視察して歸つた人の話によりますと、アメリカを見た時には、やはりアメリカが世界で一番であらうと思つてゐたさうです。ところがドイツに行つてみて驚いた。ドイツの飛行機産業は今ではとてもアメリカなんかの比でない。レベルが違ふ程發達して居つたと申します。その一つの例を申しますと、從來プロペラはアメリカの一番よいと言はれて居る。そのプロペラの特許權を先年ドイツが買ひましたので、ドイツの飛行機もそれを使つて居ると思つて居つたのですが、ドイツに行つて見て驚くことには、ドイツの軍用機には、アメリカから買つた筈の專賣特許のプロペラを一つも使つてゐない。それで不思議だから技師長に「アメリカからよいプロペラを買つた筈ぢやないか、何故あれを使はないか」と訊きますと、その技師長曰く、「あんなものは輸出のために特許權を買つたので、ドイツの軍用機には使はない。あれはアメリカと買

易の競争する爲に專賣權を買つたので、ドイツの飛行機には「あんなものは使はない」と申したさうです。丸きり段が違ふわけであります。

それから、最近ドイツから歸つて來た人の話を聞きますと、ドイツはナチスが政權を握つて以來、急速度に素晴らしい道路を造つたさうです。ヒトラーが政權を握つた當時、獨逸には七百萬の失業者が居りました。貧乏のどん底で外國も金を貸して呉れない。貿易は左り前で財政は破綻に直面するといふ状態でありました。その時にヒトラーが出た。そのヒトラーが政權掌握と同時に、第一に手を附けたのが自働車専用道路の建設であります。一寸考へると、財政窮迫の際に道路を敷くのは迂遠なやうに見える。然しヒトラーはまづ第一にそれに手をつけた。しかもその道路といふのが、アメリカの最高級の道路よりもまだ立派なものだといふのです。ドイツの國內に東より西に三本、南より北に五本、それが全部往復道路であります。その道路の舗装が深い處は五米もしてある。又路面の整つてゐることは、一米平方に曲尺で一分の凹凸もないといふのです。そして又、東の國境から西の國境に至るまでに、ゴーストツブが一つもない。道路を平面で交叉することを完全に避けられてゐる。そして自働車は平均速度百二十軒位で走ることになつてゐる。すると日本の急行

列車の二倍位の早さを以て走るのであります。その道路は十噸積のトラックが時速百六十軒で走つても壊れないやうにしてあるさうです。貧乏で今にも破産しさうな獨逸がこの大道路を作つたのです。アメリカの或る道路技師が行つてそれを見て、これが本當の道路と言ふものだとするなら、これ以外に道路といふ名を付け得るものは、世界のどこにもあるまい。恐らくは將來永久に斯ういふ立派な道路はどここの國でも作り得ないだらうと云つたといふ位です。ヒトラーはそれをどういふ風にして作つたかといひますと、世の中で一番大切なものは金(貨幣)ぢやない。世の中で一番大切なものは物資である。石炭一塊、セメント一袋、釘一本といふ「物」が大切である。物を大切にし、同時に人間の勤勞を一番尊重する。ドイツの經濟の基礎は勤勞だといふのはそのことです。「物に勤勞を加へて新しい物を作る」といふ處に總ての經濟の根本を置いてゐます。皆が働いてセメントを作り、皆が働いて道路を作る。金で作るのではなくて皆が働いて作るのであります。貧乏である、だから働いて拵へるのです。飛行機の工場も世界で一番よい。潜水艦も作つた。それは金があつたから作つたのではない。働いて作つた。ドイツはこの前の歐洲戦争に敗けて以來、社會民主黨と申しまして、無産者階級の味方をする政黨が中心になり、階級主義的觀

念に立つて政治をやつてをりました。ところがさうして居る中に國力が疲弊してしまひました。そこでそんな階級的な政治をやめて、國家全體の利益を中心とする政治をやらねば駄目だといふことが全獨逸人に次第にわかつて來た。自分の組合の利益、自分の選挙區の利益、自分の團體の利益といふやうなことを眼目にして政治をやつてをるのでは、到底ドイツは救はれないといふことが次第に獨逸の民衆にわかつて來た。

即ち既成政黨ではいけない。選挙區の利益とか、自分の地盤とか、無産階級の利益とか、有産階級の利益とか、國內で利害中心の争をやつて居つたのでは駄目であるといふことがみんなに判つて來ました。そしてドイツの民衆はヒトラーのナチス黨を見つけ出した。ヒトラーは既に十數年も前からナチスといふ政黨を作り、盛んにドイツ民族に呼び掛けてゐたのですが、その主張、その愛國的な主張に從來の獨逸國民は耳を傾けなかつたのです。ヒトラーは別に農民だけの味方になるといふでもなし、労働者だけの味方になるといふでもなし、財閥だけの味方になるといふでもない。ドイツ民族全體の爲にやるのだといふ主張を押し通してゐたのです。だが當時の民衆はそれをあまり問題にしなかつた。然し所謂既成政黨がいよゝゝ凋落するに及んで、次第にナチスの主張して居ることの方が

よいぢやないか、ヒトラーのやうな人でなければドイツ國民は統一出來ないのぢやないか選挙區や階級の利益のみを主張して居る既成政黨ではいけないのぢやないかといふことに気がつき、自分に利益を與へてくれなくてもよいから、國家の爲に働いてくれるものを支持しようぢやないかといふので、ヒトラーに皆が投票して、ナチスに政權を渡しました。かくて一九三三年にヒトラーはドイツの實權を握つたのです。だから云はゞ、ヒトラーが政權を握つたのは、ドイツ國民が自覺して握らしたのです。即ち商人の利益であるとか、産業組合の利益であるとか、財閥の利益であるとかいふやうな、そんな小さなことは捨てて、國家全體の爲に立派な人を立てようぢやないかといふので、ヒトラーをみんなが立てたのです。そこでヒトラーが政權を握つたと言へば握つたのですが、云はゞヒトラーが握つたのではない。民衆がヒトラーに政權を握らせたのです。それでありますから現在のドイツ國民はヒトラーが命令するから已むを得ずに勤勉してをるのではなく、ヒトラーの仕事を自分自身の仕事としてやつてゐる。經濟統制にしても、闇取引をやるやうな人間も全然居ないではありませんが、さういふ人間はドイツ國民の敵でありますから、國民自身がそれを糾弾する。だからドイツでは國民自身がヒトラーに統制經濟をやつて貰つてゐる

といふ形です。だから政府の統制が成功する。同時に、それを裏切つたものがあると、それを死刑にしても別に怪しまない。要するに、獨逸國民全部が統制をやつてゐるやうなものだから統制が成功し易い道理です。

七 支那事變の本質とその解決方法

私ども支那事變が始まつて以來、常に支那事變は世界の人類の歴史が一變するためのものである。これは單なる日支のみの事變ではないといふことを主張しつゞけて來たのである。支那事變といふものは、原因が甚だしく複雑深刻です。到底支那と日本と話合ひをしたら、それだけで根本的に済んでしまふやうな簡單なものではない。もつと大きな規模に於て、もつと廣い範圍に於て問題を片附けなければ、支那事變は片附かないといふ風に私は考へて來たわけです。そこで支那へも何回も行つて色々調べてみたのでありますが、調べて見れば見る程問題が複雑であつて、世間でいふやうにさう簡單なものでない。だから支那事變は、假りに早く片附くとしても三年か五年はかゝるであらう。そして極東が安定するためには十年も廿年もかゝるかも知れない。或は五十年も乃至は一世紀の混亂をも必要とするものであるかも知れない。それほど左様に一寸想像のつきかねるほど問題が深刻



であるといふことを私は絶えず主張して参つたのであります。

随つて支那事變は今片附く段階に來てゐるかといふと、まだまだ片附く處に參つてはゐない。まだくむづかしいところに立つてゐる。ぼやくして居るともつとむづかしくなる危険すらある。決して簡単に考へてはならぬものです。私は事變の當初から、支那事變は南洋問題と一元的に處理しなければ處理し得ない。即ち南洋問題の解決に日本が成功するか成功しないかに依つて、日本が支那事變に勝てるか失敗するかも決まるのである。支那事變が片附くかどうかといふことは、日本が南進政策に成功するか否かによつて決まるといふことを、私は主張して來ました。

支那事變が單なる支那事變として片附く事變だと思つてはいけません。南洋問題を美事解決することが出来るならばこの支那事變も片附く。若し南洋問題に失敗するならば、支那事變にも亦失敗することになつてしまふであらうと私は思ひます。丁度今、日本は一方において支那事變をやりつゝ、他方同時に南洋問題が白熱化しかけてゐるのでありますから、我々日本民族は今や前古未曾有の重大時局に直面しつゝあると申さねばなりません。固より日本民族は之にも成功致しませう。どんなに苦しくても突破するものと考へます。

どんなに困難であつても日本民族は之を解決するだけの力のある民族だとは思ひますが、それは結論の話であつて、今の状態から申すならば、まだく日本民族の苦難は今後益々酷くなる可能性があると思はねばなりません。皆さんの中には戦地からお歸りになつた方もおありでせうが、現在の支那は日清戦争當時の支那とは全然面目を一新して居ります。昔の支那人は愛國心を持つてをりませんでした。然し今の支那人は支那の國家を建設しよう。支那民族を統一しようといふ民族精神で戦つて居るのです。支那の國が始まつて以來今日ほど、強く支那民族の統一氣運の起つたことは未だ曾てないのぢやないかと私共は思ひます。それほど強い統一と獨立の氣運が起つてゐるのです。固よりまだ國家としての力が充分に備つてゐるわけではありませんから、日本のやうな強國に勝つといふことはむづかしいことです。然し兎にも角にも、弱いなりに國民が一致して國の爲に戦ふといふ精神で蔣介石を中心に立て、石にかぢりついても最後迄やらうとして居るのが現在の支那ですから油断は禁物です。

現在の支那には、三民主義の教育を受けて、民族獨立の精神を持つたものが四十歳以下の人間には極めて多い。これらの分子は昔のやうな支那人ではありません。でありますか

ら北京や南京や青島や廣東が陥落しても彼等は降参しない。即ち民族獨立の精神と團結が出來て居るからです。日本で申せば東京も京都も名古屋も大阪も神戸も博多も皆取られてしまつても、まだ降参しないのですから、大體の氣運を察すべきです。彼等はかうして石にかちりついても領土を取られまい。利權を取られまい。償金を取られまいといふので、最後迄戦はうとして居るのです。處が奇妙なことには日本の對支事變對策即ち、支那事變の目的といふものは、領土は取らぬ、侵略しない、償金も取らぬ、唯、日支の眞の提携が實現出來ればそれでよいといふことを標榜してをるのです。乃ち日本は國策として、はつきりと侵略主義でない。領土も賠償も要らないといふことを言つて居るのです。併し支那人はそれを信用してゐない。口ではあゝいふことを言つて居るが、事實に於てはさうでないのだらう。斯ういふ風に支那人は考へて居る。日本人のいふことをそのまま聞いてゐると瞞されるぞ、酷い目に會ふぞ、日本と提携すると瞞されるぞ、といふ風に支那人は考へて居る。このことについては、東洋の君子國としての日本人たるもの、大いに反省してみねばならぬ。

議會で或る政黨の代議士が近衛聲明などは空想だ。あんな空想のやうなことを云つて居

つたのでは何のために戦争したのか意味をなさぬぢやないか、もう少し實利主義でゆけ、侵略になつてもよいぢやないかといふやうな意味のことを饒舌る人間がゐる。これは非常な問題を起した結果、除名になつたのだから、そのこと自身はそれで一應片附いたとしても、さういふことを支那人はどう受取るか。あの通信は直ぐにそのまゝ敵の方に入つて居るのですから、「それ見ろ、近衛聲明は領土を取らぬとか、償金も取らぬといつて居るが、日本國民はやはり侵略主義でなければいかんと云つて居るぢやないか。」といふでせう。蔣介石に「それ見ろ、日本の有力な人がさういつて居るぢやないか、日本人は國策を守らないのだ。勝手なことを言つて居るぢやないか。」と言はれるのは残念ぢやありませんか。支那事變といふものは領土を取らない、侵略をしないといふのが國策なのです。いはゞ公定價格なのです。ところが、公定價格など守つてをって金が儲かるか、金儲けといふものは間に限るものだ。闇取引で領土を取つてしまへ、鑛山をとつてやれといふやうなことを國民の中に言ふ人があつたならば、それで支那人が果して心から日本に附いて來るでせうか。それで日本人は公明正大な愛國心があり、國策を至上の精神として居る國民だ、と云へるでせうか。それで天皇陛下の大御心を心として四海同胞の大義を八紘に布かうと

する國民ばかりだといふことが云へるでせうか。私は支那人に澤山友達が居ります。それらの大部分の者は一般に日本人を信頼しないのです。詳しく云ふと、現在の日本人を信頼しないのです。だから私が日本の東亞新秩序建設の趣旨、竝に非侵略の精神を説明してやりますと、「あなたのいふ日本の國策といふものゝ精神は理解出来る。然し日本人の中にはあなたのいふその國策を守らない人間が居るぢやないか、現に占領地帯に来て居る商賣人、資本家、旅行者の中にはあなたの言はれる陛下の大御心、四海同胞の精神で支那を扱つて居ないものが多いぢやありませんか。」といふのです。さう言はれると誠にその通りなのです。例へば北支の駐屯軍當局が、從來、支那人を瞞して金儲けをしたり、その他聖戦を冒瀆する不良邦人を取締る爲に屢々聲明を出して居りますが、それほど困つた人物が多い有様なのです。固より全部が全部悪いものではありません。然しさういふ傾向が少くないといふことは事實です。そこで私共は支那人がさういふことを云つた時には「それはさうだ、お前達がいふやうにさういふ酷い日本人も居る、日本人だつて間違がないとは言はない。だから我々は國民運動をやつて國民の反省を求めて居るので、その間違つた人間を眞人間に返してやらうとしてゐるのだ。然し君のいふやうに間違つて居るものだけを採り上

げて論ずるなら、お前の國にもさういふ間違つた人間はいくらでも居るぢやないか、そんな間違つた人間のやることを見て、それだけで日本の國策を信頼しないといふ馬鹿なことがあるか。」といふと、「さういふ精神で言はれるならば、それは私共にも理解出来る。それが日本人全部の精神だといふことが私共にわかれば、私共は日本に附いて参ります。併しさういふ精神の人は日本には少いやうに私共は思ふ。だから我々は附いてゆけない。」といふのです。そこで私は「内地に居る眞面目な日本人は皆我々のやうな精神である」といふと、「さうかも知れぬが、私共には分らぬから附いて行けぬ。」と申します。かういふ次第ですから、現在のまゝでは日支の提携は容易に出来ませぬ。そこで日支の眞の提携のためには、まづ日本が國內で立派な建設をして見せる。一億國民の一人々々が立派な新體制をやつて見せる。生産の新體制、配給の新體制、消費の新體制、議會の新體制、役所の新體制、農業の新體制、工場の新體制、その總てを立派にやつて見せる。すると支那人が、成程これは立派なものだ。我々もあれを眞似をしなければならぬ。日本の昭和維新、日本の新體制を模倣すれば、支那の新體制もうまくゆくだらう。戦争に敗けて癩には障るが、兵隊は強いし、又銃後の國民も亦立派な建設をやるならば、抗日など止めてしまつて、い

はゆる日支の提携をやつた方がよいぢやないかといふことになる。支那人がさう考へて來るならば、戦争は濟んでしまひます。ところが第一線の兵隊さんは聖戦をやつて居るのに、銃後の人間は金儲けにうつゝを抜かしてゐる。時局成金にならうとしてゐる。そんな人間が澤山居るので支那人は日本人を馬鹿にすると思ひます。現在の日本人の中には自由主義者や個人主義者が多い。それらの者は自分の利益のことばかりを考へて居る。だから農村と都會とが争ひ、生産者と配給業者とが争ひ、商業組合と産業組合とが算盤のために争ふ。それを支那人が見て、日本の國內は日が経つに従つて喧嘩が激しくなり、政府を助けようとはしないで政府の攻撃ばかりをやつて居る。だから内閣も、戦争が始つてから三度も四度も變つたぢやないか、こつちは一度も變らない、日本の國民は政府を支持しようと思ふよりも政府の攻撃の方に力を入れて居るぢやないか、即ち蔣介石も日本の政府を攻撃して居る、日本の國民も亦日本の政府を攻撃して居る、日本の國民は蔣介石の味方をし居ると同じぢやないか、だから戦争が長引いたならば、日本の政府が必ず敗けると、抗日派の分子が言つて居ます。日本國民たるもの、自覺せずにはをられないぢやありませんか。政治家も自覺しなければならぬ。當局も自覺しなければならぬ。國民全體が自覺しな

ければならぬ。若し政府のやる政治が間違つて居つたならば、立派な政治の出来るやうに、國民全體が之を是正してゆかねばならぬと思ひます。蔣介石は、今度の事變の初まるつと前から、支那は到底軍事行動で日本に勝つことは出来ない。何故ならば日本は飛行機も軍艦も澤山あり、とても強い。だから軍事行動では勝てない。けれども戦争には敗けないと云つてゐた。即ち戦線の兵隊にはとても勝てないが、日本の銃後の人間は利益の争奪のために相剋摩擦をやる。だから最後には勝てる、かう主張してゐるわけです。とすると吾々日本國民としては、この蔣介石の見方の裏を搔いて、蔣介石の作戦の逆手を取るやうに動かねばならぬ。さうしないと勝てないわけです。私は戦争が始まつて以來常に、機會ある毎に、自由主義の我利々々盲者のやうなことをばかりやつて居ると、蔣介石が手を叩いて喜ぶぞといふことを警告して來ました。然しそれがなか／＼無くなりません。かくては、南京が落ちても、漢口が落ちても戦争はなか／＼片付かない。廣東が落ちても戦争は片付かない。吳佩孚が出て、汪兆銘が出てそれだけでは駄目です。汪政権の出來たことは結構であります。日本が親日政権を助けてやることは當然のことです。これを馬鹿にしたり、邪魔物扱ひにしたりしてはいけません。けれども、今日の支那人といふものは大

部分抗日派であつて、この支那の抗日精神を轉向せしめない限りは、支那事變といふものは片附くものでない。この頃又ビルマルートの開閉問題が問題になつて居りますが、英米の援蔣が假に無くなりましても、それだけで支那事變は済むものではありません。支那人は英米が援けて呉れるから戦つてをるものではありません。むしろ逆に、支那人に獨立力が出来てゐるのを英米が利用してゐるのです。だから一方において實力で支那の抗日精神を叩きつけることは結構ですが、他方、日本は領土を取るに非らず、償金を取るに非らず、支那を侵略せんとするのでない、支那と日本と提携して亞細亞を復興するために戦つてゐるのだ。日本だけが甘い汁を吸はふといふのではないといふことを支那人によくわからせることが大切です。さうすれば支那人は附いて來ます。即ち支那人の心を掴むことが出来れば事變が片付くが、それが出来ないとする事變は殆んど永久化する危険があります。現在重慶は武力は減つて居りますが、まだ兵隊の數は事變當初よりむしろ殖えて居る位です。だからまだ決して戦意を失つてしまつてゐるではありません。いはゞまだ心から和平を求めてはをりません。まだ、最後迄戦へば必ず勝つてると考へてゐる人間が多い。それは先ほども申しました如く、日本の國內の分裂による國力の低下に期待をかけて

ゐるのです。元來支那は弱い國であつて、日本が支那に敗けるといふことは差當り考へられませぬ。然し支那人の大勢としては、若し日本と提携すれば酷い目に會ふ、だから提携するより團結して抵抗して居つた方が得だ。日本に亡ぼされるよりは日本と一緒に心中した方がまだ増しだといふやうな捨鉢氣分になつて居るのです。それでありますから先ほど來、私が申しますやうに、近衛聲明その儘で眞直ぐに全部が進めば戦争は済むわけでありませぬ。處が若し支那人の心を掴み得ない儘で、大軍を支那大陸に派遣しつゞけてゐると、一年に十億圓も二十億圓も軍事費が要るのでから、財政が成り立たなくなる危険がある。支那から少々の石炭や鐵を掘つても算盤など合ふものぢやない。一年に一億圓や二億圓の石炭や鐵を掘つても、十億圓も二十億圓もの軍事費がかゝつてをつては、差引十數億圓の損になります。ところが近衛聲明のやうな精神で、利權も要らない、領土も要らない、侵略もしないといふ精神を實行したならば、今迄日本を誤解して居つた支那人も結局は日本の精神が分つて來る。そして、それぢやもう抗日を止めよう、さうして日本と眞に提携して共存共榮でやつて行かう、その爲には支那には澤山の羊毛や綿や石炭や鐵が取れるから、その支那の資源を日本へ賣らう、日本の物を買はう、そのためには經濟協同のた

めの條約も作らうといふことになる。さうすれば日支は共に未曾有の繁榮を實現し得るの
であります。

八 南進政策の本義

今の日本の國際的地位は、日本國民の自覺一つで、大きな仕事の出来る地位です。處が
國內に舊體制の人物が少くないために、新體制がうまくゆかない。これが一番困ります。
日本は今、非常に充實した海軍を持つてゐます。この海軍を背景として、亞細亞民族の復
興の爲に南進政策を強行し、フランスやイギリスに壓迫されて居る植民地を解放し、そこ
の土着民族を支援して獨立させ、日本が中軸となつて大東亞共榮圈を作り上げるならば、
非常に大きな仕事の出来る立場にゐます。日本はそれ等の民族を侵略するに非らず、領土
を取るに非らず、利權を奪つて甘い汁を日本だけが吸ふといふのでもない、お互に幸福に
ならうぢやないか、今迄西洋から壓迫せられて居つたが、この機會に提携して亞細亞の文
明を復興しようぢやないかと云へば、彼等は必ず附いて来る。日本の指導を求めて来る。
佛印、蘭印、ビルマ及泰等が總て、喜んで日本の錦の御旗の下に集つて来る。さうなれ

ば、支那の北支の一つや二つ取る程度のケチな利益ではなくて、亞細亞の資源が悉く日本の方に自然に流れ入つて來ます。侵略主義は今の世界では不正義であるといふことが常識化してゐる。弱小民族も皆さう思つてゐる。昔とは違ふのです。いふまでもなく日本國民も侵略主義は不正義だと思つてゐる。それでありますから、日本が文字通り聖戰の精神を以てこの事變を最後まで推し通したならば、支那四億五千萬がやがて心から反省して、喜んで日本と提携し、日本の物を買ひ、日本へ物を賣るといふ氣になり、經濟提携が實現するのであります。獨逸は今、さうしたことを歐洲で實現しようとしてゐます。日本はそれをドイツよりも上手にやつて行かねばなりません。そのためには、まづわが國內において、獨逸よりもまだ上手な新體制を一日も速く建設してゆかなければなりません。これが根本問題です。

九 米國の對日壓迫とその波紋

日本の外交としては、三國同盟がもつと早く出來た方がよかつたのです。それが今日まで何故出來なかつたかと言へば、若し日本が獨逸と結ぶと、アメリカが日本に經濟壓迫を加へる處がある。さうなると、日本は石油が買へなくなる、鐵屑が買へなくなる。隨つて戰爭がやりにくくなる。或は日本の絹や生絲をアメリカが買はなくなる。さうなると日本の養蠶業者が打撃を受けるといふやうなことが心配なので、アメリカを怒らせないやうにしなければならぬといふ人間が多かつた。そこで外交の腰が弱くなつたわけです。日本は南洋を指導圈内に入れることが出來たなら、アメリカから物を買はなくても、南洋から物を手に入れることが出来るから日本は大丈夫です。南洋を支配するものは世界を支配するといふ言葉がありますが、南洋にはゴムや錫、フィリッピンには麻、支那にはタングステンや桐油といふやうなものがある。アメリカはこれらのものを輸入しなければ困るので

す。だから日本が斷乎として西太平洋を封鎖するならば、逆にアメリカが困るのです。それを若し日本がアメリカに縋つて居るならば、結局日本はアメリカのために鬻りものにせられて、終には大陸工作の手を退かなければならぬことになる虞がある。それでありますから、アメリカの御氣嫌など取つて居つてはいけません。アメリカは日本の東亞新秩序建設を認めようとは考へてゐないので、所詮日本はアメリカの御氣嫌ばかりをとつてはをられません。随つて今度三國同盟が出来て、日本の方針がハッキリいたし、アメリカが何と考へてもよい、日本はやるだけのことにはやり遂げるのだといふことがハッキリいたしましたのは、洵に結構なことであります。日本に對してアメリカが干渉的なこと、或は壓迫的なことをやらうとしても、現在のアメリカの海軍の力では、軍事的に日本を攻撃して來るといふことは、まづ差當りあり得ません。今のアメリカは東においてはドイツにも對抗しなければならぬし、西においては日本に對抗しなければならぬのですから、とても西太平洋又は南洋まで、今武力的に、大掛りに乗り出して來るといふことは、まづ不可能です。尤も戦争といふものは理窟のみでは云へないところがありますから、どんな拍子で喧嘩にならぬとは限りませぬ。然し今の處直ぐに日米戦争が起るとは思はれないのです。

唯、北方のアリユシャン群島の邊から南のシンガポールの邊にかけて、アメリカが對日軍事施設を強化して長期戦の形で經濟的に日本を苦しめようと企むといふことは考へられます。然しこちらはアメリカに逆封鎖を加へて逆手を取つてゆくことも可能ですから、決心次第では面白い手が打てるわけです。尤も經濟封鎖を加へられますと、先刻も申し上げましたやうに、鐵屑が來ない。すると日本の製鐵、機械工業が打撃を受ける。これを取り切る方法がないのではありませぬ。乗切る政策はあります。併しそれにはそれだけのガツチリした國民一億の心構が必要で、國民が舊體制の勝手なことを云つてゐるのでは駄目です。鐵や石油の生産についても消費についても、みんなが利己主義を捨て、國家的に最大の努力をしなければ駄目です。

十 官僚統制と民衆の役割

わが國でこの頃、闇取引が行はれて困るから、ドイツのやうに死刑を以て臨むやうにせよといふ人があります。然し日本の現在のやうな情勢で闇取引をやつた者を極刑に處するといふことであれば、何萬、何十萬の人間を極刑にしなければならぬやうなことになるかも知れぬ。それは到底出来ることではない。法も完備した上に、國民全體が絶対に闇取引を絶滅せねばならぬといふ氣持になり、國民自身が統制經濟を我が事にして成功させようと念願するやうな氣運が生じ、若し法を犯し、民衆の氣運を裏切るやうな人間が生じたならばそれを民衆自身が極度に恨むといふことにならなければとても出来ない。闇取引が白晝半公然と行はれるといふやうな状態では、それに臨むに死刑を以てするといふやうなことは、とても出来るものでありません。尤も現在五千圓の罰金刑をぐつと引上げたり、或は體刑を科することにするといふやうなことは適當であるかも知れませぬ。尤も、この

經濟統制といふことにつきましては、政府のやり方にも下手な點があつて、いろ／＼な落度もあり、國民が歸趨に迷ふといふ點もあるのでありますから、民衆ばかりを責めるわけには参りません。

現在の統制經濟はいふまでもなく官僚がやつて居るのであります。官僚といふものは從來法律を勉強し、法律の運用に當る爲に奉職して居るものであつて、經濟のことについては専門家ではない。併し今の日本には確立せる政治的な指導力が民間にない。しかるに統制經濟はやらすに居られない。經濟上の必要、或は政治上の必要からどうしても統制經濟をやらなければならぬ。皆さんが選舉して出された政治家なるものは政治的統一力もなければ指導力もない。だから人氣がない。統制經濟を上手に遂行する能力は固よりない。そこで官僚が全部を引受けてやつて居る。だが官僚といふものは元來、事務官であつて政治家ではない。だから民衆から見れば穴がある。ところがその穴を探し、そこを潜つて甘い汁を吸はうとする人間も居る。さうして時局成金といふものが生れる。甚だしいのは統制成金といふのもある。だから統制經濟が益々巧く行かない。下手な官僚が益々下手になり、物價政策も破綻を生ずることになる。かうしたことをするのは、固より國民の全部では

ありませぬ。多くの人は眞面目なのでありますが、一部にさういふのがをります。官僚のやつて居るのが下手なら、立派にやらせるやうに叱正鞭撻すればよい。自分自身がその穴をふさぐやうにして行く、日本が戦争の出来易いやうに助けてゆくといふのでなくてはうまくゆかない。若し、かういふ態度で當局をいくら援けてみても、當局がどうしてもうまくようやらぬといふのであれば、更替して貰ふやうにお上にお願すればよい。國民がいくらか協力しても、うまくやらないといふのであれば、致し方ない。お上にお願して當局を取替へて戴く外はありません。さういふやうに所謂公論を下から盛り上げることによつて、立派な政治が出来るやうに吾々は努力するのです。その爲にこそ、日本國民は憲政を與へられてゐる、我々は言論の自由を與へられて居る。この自由を吾々は正しく生かさねばならぬ。當局のやつて居る統制には私共が見ても下手なことが澤山あります。然しその下手なことを益々下手にするやうに、益々失敗するやうに攪亂して置いて、そしてその責任は當局だけにあるのだといふやうなことを言ふのはどうかと思ひます。私共は官僚に話をする時には、官僚はもつと經濟を勉強しなければならぬ、又時局も研究しなければならぬ。國體精神を研修する必要もあると提唱してをります。でありますから私は官僚が現在やつ

て居ることを完全だと思つてをるわけではありませぬ。批判をすれば幾らでも批判は出来ます。然し、それを正して行くやうに民衆自身も考へなければならぬ。自分の國の政治に穴が開いて居る時にその穴を閉ぎ、祖國を守るのは誰かといふことを考へたならば、お互みんなが考へなければならぬ。官僚も考へなければならぬが、民衆も考へなければならぬと思ひます。

最近における獨逸のやり方を見ると、ヒットラーといふ人は偉いものです。現在ヒットラーのやつて居る内治外交は、ビスマークの外交とモルトケの作戦とウイヘルム一世の統括と、この三人の仕事を一人でして居る。實にドイツの歴史始まつて以來の英雄であると思はれます。ヒットラーはそれほどの素晴らしい力を持つて居る。然し民衆も亦目覺めてゐる。現在のヒットラーと民衆との關係は決して懸け離れたものでない。といふのは、ヒットラーが政權に就いたのは暴力革命に依つてではなくて、選挙の方法に依つて出て來たのです。即ちいはい憲政の本義に立脚して出て來ました。民衆の自覺に立脚せる選挙の力で出て來たのです。だから單なる獨裁主義ではない。そのところを理解してをかかないと、今次獨逸の革命の意義もわからないし、ヒットラーと民衆との關係もわかりません。

さて、かうした國民全體の自覺を基礎とせる團結から生れて來たドイツでありますから、だから貧乏であつても飛行機産業がべら棒に發達する、又、べら棒に立派な道路が四通八達的に出来る。日本の現在の國內状態を見ますと、少くも差當り獨逸とは大分狀況が違つてゐます。どういふ風に違ふか、日本の國內では、所謂自由主義、個人主義、金儲主義の精神が國民の團結を妨害してゐる。例へば資本家でも労働者でも考へ方が大部分間違つてゐる。まづ労働者の例を取つて見ますと、日本の労働者は「金を儲ける爲に仕事をし居る」と申さねばなりません。即ち「國家の生産に御奉公するために仕事をし居る」のではなくて、金を儲ける爲に仕事をし居る。それでありませうから、労働者は賃銀を取りさへすればそれで目的を達したといふことになる。だから賃銀を澤山取り、成るべく働かないのが成功といふことになる。又、五錢でも十錢でも賃銀の高い工場を探して職場を移動し、生産能率を落とすといふことになります。現在の日本では、労働者の賃銀が高くなればなる程働きの能率が落ちてゐるのが實情です。労働者の賃銀は二倍半から三倍になつて居るが、その稼働率は二分の一、又は三分の一と落ちて居る方面も少くないといふ有様です。固より、かうしたことが生ずるのは、一面においては事業經營そのものゝ仕方が營利

主義になつてをり、事業主側が賃銀の引上げを餌にして労働者の引抜き競争をやるといふやうな點も大きな影響を及ぼしてゐるのでありますから、決して労働者だけを悪くいふことは出来ません。

自由經濟の時代には労働者が足らなくなれば、労働者の賃銀が高くなる。物價といふものは一體に需要と供給の關係で動いてゐる。そして供給が減ると物價は高くなる。これが自由經濟の原理です。そこで労働者の數が減ると賃銀が高くなるのは自由主義の社會においては當り前です。さうすると労働者はどういふ氣持になるかといふと、もう大丈夫だ、首を敲られる心配はない。首を敲られたつて外の方へ行きさへすればよいといふやうな氣持になる。そこで急げ勝、氣儘勝になる。そして賃銀が高くなればなる程急げることになり勝です。

かくて、自由主義的な労働者の精神が今や日本の産業を根本的に破壊しようとして居るといふことが出来ます。日本國民の勤勞精神が腐つてしまへば、それで日本の産業はおさらばです。極端な例をとると今の日本人なら、一日に百圓宛日當をやるから、朝から晩まで寝て居れと言つたならば、大抵の人は寝て居るのではないか。要するに、金を儲ける爲

に生きて居るのであつて、働く爲に生きて居るのでない人間は、寝て居れば百圓も日當を呉れるなら寝てゐようといふことになると思ひます。そこで假に又極端な例をとつて、一年中毎日百圓宛の日當を貰つて日本國民一億が皆、朝から晩まで寝てをるといふことになると、日本の國は亡びざるを得ません。斯んな極端なことは固より現實にはあり得ないのでありますが、賃銀が高くなつてをりながら、作業能率が日に／＼低下して行くといふのでは、日本の産業は亡びざるを得ないと思ひます。去年の秋頃から日本の生産は落ちはじめてゐます。それは何故かといふと、資本家にも原因があるが、労働者側にも原因がある。労働者が職場に落付かない。あそこが少し賃銀が高いといふとそちらへ行つてしまふ。これでは生産力を發達させようにも發達しない。又資本家にしても、生産力を擴充するといふことよりも、自分の会社の儲けといふことだけを考へてゐる、儲ければ働くが儲けがなければ工場經營に元氣を出さない。これでは産業は發達しません。

かうした氣分が國民一般の氣分になつて居つては國力は發展することが出来ません。國民が國家の爲に働く、國家の爲に仕事をするといふのでなく、自分の儲けの爲だけに生きて居る、自分の利益の爲だけに生きて居るといふのでは、國家は強くなれないわけです。

そも／＼計畫經濟といふものは、國內の生産力が幾らあるか、國民の消費量は幾らか、といふことが數字的によくわからないとうまくゆきません。消費量がはつきりして消費計畫がはつきりしなければ、生産計畫は立たない。だから計畫經濟或は統制經濟をうまくやらせようと思へば、生産者も配給者も消費者も數字の嘘を言つてはいけない。ところがこの間、或る縣の或る村に行つた時、石油の配給の話で打明話を聞きました。縣廳の方から各町村へ石油の必要量を届出して呉れといふ照會を出した。すると或る村は千罐要るといひ、その隣りの村は五百罐要るといつて届け出た。ところがその兩方の村は田圃の廣さも、動力機の數も、百姓の數も略々同じ村なのです。それを一方は千罐要るといひ、他方は五百罐要るといふのです。これではとうてい上手な統制經濟も公平な統制經濟もやれない。かうしたことは肥料の場合でも同じです。實際には一反しか作らないのを一反二畝作るつもりだと云つて餘計に肥料を取らうといふやうなことをやられては、恐らく皆さんが役人になられても、統制經濟はうまくゆかぬでせう。嘘の數字を基礎にしては誰でも計畫は立ちません。官僚の統制經濟がうまくゆかぬのには、かうした原因もあるといふことを知つてをく必要があります。

十一 「闇」に對する反省

元來日本人は愛國心の強い民族で、國家の爲には喜んで一命をも捨てるといふ民族である筈です。それが昔から日本人は立派な國民だと言はれて來た所以であります。日本人の肚の底を割つたならばさういふ大和魂といふか、日本精神といふか、天皇陛下の御爲、國家の爲に忠誠を盡すといふ精神を皆持つてゐると思ふのです。然るにこの頃の日本人のやることを見ると、自分の利益といふことに心が奪はれてしまひ、御國の爲といふやうな心が匿れてしまつた人間が少くない。この頃世間でよく「闇」といふ言葉や行ひが流行する。この闇といふ現象を分析して見ると、恐ろしいことを反省させられます。闇の仕事が世の中に蔓るといふことは、いはゞ今の世の中が或る程度闇になつて居るといふことを意味するのではないか。即ち神代の昔、天照大御神様が天の岩戸にお入りになつて世の中が闇になつたといふお話がありますが、今の世の中の一部に闇といふことが頻りに且つ平然と行は

れるといふのは、天照大御神様が或る程度天の岩戸にお入りになつたといふことを意味するのではないか。このところをお互に反省して見なければならぬと思ひます。

そも／＼天照大御神様は何處に居られるかと申しますと、大御神様は高天の原にゐらせられる。と同時に我々日本人はどんな人間でありましたも、その心の底に皆、天照大御神様の御分靈をいたゞいてゐます。日本人である限りは皆、天照大御神様の御分靈を持つて居る筈であります。今日の言葉で云へば、國民精神を持つて居るわけです。國民的良心と申してもよろしう御座います。ところがその天照大御神様の御分靈が、自分の利益とか、或は自分の權利といふやうな慾の雲で被はれて曇つて居る人間が少くない。だから日本の國がそれだけ闇になるのぢやないかを考へて見ねばならぬと思ひます。さういふ意味に於て私共は、天照大御神の御分靈、云はゞ國民的良心を發揮し、伊勢の皇太神宮様の氏子の精神を發揮するのぞければ、現下の國難を乗切ることが出来ぬと思ひます。

日本は昔から「大和」の國、或は「大和」民族と申して居りますが、この大和といふ字は和合といふ字であつて、今日の言葉でいふと協同といふ字に當ります。即ち大和の國とは、協同體國家といふことです。大和民族といふのは協同體民族といふことです。それを

別の言葉で言へば家族的な國家、家族的な民族といふわけですが。これはいふまでもなく、ドイツのナチスに教へられてはじめてやつたことではない。日本は二千六百年の昔から、さうした精神で國を建て、參つて居るのです。ドイツも數年以前から協同體建設を主張して居りますが、日本は二千六百年の昔からさういふ精神で國を建て、をります。二千六百年の間、我々の祖先は常に天照大御神様の御分靈の精神を發揚して、國を發展させて來た。そして現在までに吾々の祖先は、主としてこの島國の中に大和の國を創造して來た。即ち民族協同體、國家協同體を築き上げて參つたのであります。これが過去における吾々の祖先の二千六百年の仕事であつた。ところが茲に吾々は今、亞細亞全體、東亞全體に協同體國家を作り民族協同體制を作らうとして、今支那事變の大事業に手をつけて居るのであります。それだけの大事業を建設して行かうと思ふならば、日本の國の内部に平然と闇が行はれるやうな、怨の雲の爲に天照大御神様の御光が曇らされるやうなことが少しでもあつてはならぬ。國民全體が日本人らしい精神を發揮して、文字通り聖戰の精神で以て民族協同體建設の立場で亞細亞民族に呼びかけなければならぬと思ひます。聖戰の聖戰たる所以はこゝにあると考へます。

十二 新體制と國民の身拵

では、かうした重大な轉換時代に處してゆくには、各自はどういふ風に身拵へをしたならばよいかと申しますと、第一には怨で物を考へないで、國家の爲といふことから物を考へる。又 天皇陛下に忠義を盡す爲にはどうしたらよいかといふ處から問題を考へる。さうした態度で物事を判断し、さへすれば、「當らずと雖も遠からず」で、そんなに世の中に遅れてしまつたり、時世と喰ひ違つたりすることはないと思ひます。然るに若し自分の怨に拘り、俺の權利を擁護するのにはどうすればよいか、俺の地盤を守る爲にはどうすればよいかといふやうな處から物を考へてみると、却つてとんでもないことになりませう。怨から出發して仕事をする、目の先ではうまく行つたやうに思へることが度々ありますが、今日のやうな時世においては、特に大きな不幸を招くことになるものと考へます。今日のやうな時世には、謂はゞ日本精神に立つて物を考へてをれば間違ひがないわけです。御互が

召集令状を受け取つた兵隊さんと同じやうな氣持、銃後で召集令状を受けた氣持で、生命も要らない、金も要らない、繩張りも權利も要らない、國の爲にやる。第一線に於て決死隊に加つて行くやうな考へならば、恐らくどんなことがあつても大局を誤るやうなことはないと思ひます。尤も普通の人間では、そこ迄はなか／＼行きにくいとしても、兎も角も出来るだけ努力する。出来るだけ國家本位に物を考へるといふ心構を根本にするのが一番危な氣がないのだと私は考へます。

次に、第二に必要なことは、いはゞ時局認識です。即ち時局の大勢をよく研究することが必要です。今の世の中はどういふ風に動いてゐるか、即ち歐洲戦争はどういふ風に動いてゐるか、支那事變はどういふ風に動いてゐるか、日本國內の經濟情勢はどうか、社會動向はどういふ風になつてゐるかといふやうなことを研究する必要があります。自分一個の身の振り方を決めるについても、時局の大勢をよく理解してゐないといけません。

この頃地方を歩いてみると、財産があつたり、地位があつたりする人、即ち従來指導者階級と云はれたやうな人が却て時世に遅れた頭を持つてゐる傾向があるやうに思ひます。例へば企業合同の動き、共同經營の動きを例にとつてみましても、例へばお米屋さん、吳

服屋さんの企業合同の場合の實狀をみても、さうした新體制に一番に賛成するのは、どうも貧乏な商人の中に多い傾向がある。金持の人は何とかかんとか理窟をつけて合同に賛成しない場合が多い。ところが企業合同が出来ると、企業合同といふものはよいことです。から、それに参加しなかつたものは不利になり易い。すると、之に反對した金持は後で、べそをかゝねばならぬことになるのが多いやうです。即ち慾の深い、頭の舊い人間は却つて泥田の中に落ちて、慾の少ない人間が浮び上がるやうな傾向があります。ですから、今日のやうな時世には特に自分の慾の蛇を自分の首に巻きつかせないやうに氣をつける必要があります。

十三 翼賛會と新體制

大政翼賛會は今その人的構成が進められてゐますが、世間には、この翼賛會が出来ることとが新體制の中心課題であるかの如くに考へてゐる人間がゐるやうです。然し翼賛會が出来たならば、それで新體制が實現するのではなくて、翼賛會は新體制を實現するための機關と申しますか、推進體と申しますか、いはゞ新體制を實現するための道具であります。だから翼賛會が出来たならば、それで目的を達するわけでもなし、それ、安心だといふわけのものでもありません。

世間にはこの頃、翼賛會の人事がどうも停滞する氣味があつたり、舊體制的な人物が這入り込んだりする氣配があるので、どうも面白くないと考へてゐる人がありますが、私も、その點は同様に考へます。然し、現在世上を見渡した時、果して舊體制でなく、文字通り新體制を指導することの出来るやうな人物が澤山にゐるでせうか。私どもさういふ立

派な人物を發見するのに苦しむのです。恐らく近衛公も、その點に苦心してをられると思ひます。とすると、現在見るやうな人事にならざるを得ないのでせうか。

そこで吾々としましては、吾々の脚下から新體制の氣運を盛り上げ、地方の翼賛會支部を作るにしても、中央の翼賛會本部を作るにしても、その役員に不足を生じないやうにしてゆかなければならぬと考へます。從來の一般の氣風から申しますと、民衆の代表とか、團體の役員とかいふ地位にはどういふ人を立てたかといふと、組合員の利益を計つてくれ、その地方の利益を計つてくれたり、或は自分一身の利益を計つてくれる人間を立てた傾向があつた。これがいけなかつたのであります。今後はかうした舊體制でなく、國家的正義を主張する人物を立てなければならぬ。さういふ氣分が一般社會に生じて來なければ、翼賛會の役員によい人物を迎へようとしても、なか／＼さうした人物が社會の表面へ出られませんか、又たとへ出られたとしても、その主張が社會に行はれません。こゝにおいて、翼賛會をよいものにするためにも、又翼賛會の活動を有力にするためにも、民間一般の心構を建て直してゆく必要があるわけです。

十四 公益優先と私益

この頃「公益優先」といふことがよく云はれますが、公益優先とはいふまでもなく、私益を公益の後に従はせるといふことです。國民が一つ心になつて、纏りのついた經濟生活、纏りのついた經濟機構、纏りのついた配給機構、纏りのついた消費組織を作つて、纏つた強力政治をやる。そしてそれを背景にして強力な一元外交をやつて行く。かういふ風になるのには、どうしても國民が自分自身の私益よりも公益、國益を先に立て、仕事して呉れないと出来ない。世間には、公益優先といふことはナチスに教へられたことだと思つてゐる人がある。だが、公益優先とか國益優先といふことは、何もナチスに教へられなくても、むしろ日本人こそ、さうした精神において世界で最も優れた國民である筈です。だから日本人が一人も残らず自覺して、一億一心の體制において、一致團結して働くといふことになりましたならば日本人は決してドイツ人に敗ける國民ではありません。ヒトラーが如何

に偉くても、ドイツ國民の中には心からヒトラーを支持してゐない者もをります。然し日本の國に於ては心から 天皇陛下に歸一しない人間は一人もゐません。だから日本人が眞に自覺して、皇室を中心として忠君愛國の精神に立ち、國益優先、公益優先の精神に立つて生産、配給、消費の各方面の仕事をする。その機構を整備するといふことになりさへすれば、ドイツのやつて居る統制經濟、ドイツのやつて居る計畫經濟のやうなものよりも、もつと立派なことが出来ると私は考へます。

そこで問題は、國民の全部が全部、自分の利益を後にして大御心に歸するといふことが出来るのは何時のことか、といふことが問題になるわけです。明治以來七十年も八十年も永い間、金儲け本位でやつて來たので、その觀念を抜かうとしてもなかなか抜けられない人間が多い。制度もさういふやうに出來て居る。その制度を改めるのもむづかしいし、心構を改めるのもむづかしい。その兩方を改めなければならぬから、これを改めるのに相當の時間がかかります。それが心配です。時間がかゝると、その時間だけ時局の解決が長引くわけです。それでは困る。何とかして一日でも速く全部の國民が公益優先、國益優先の精神で一糸亂れず、國家の經濟を興隆してゆくことにしなければならぬ。

世間には、公益優先といふと、大變に民衆を犠牲にするものだと考へてゐる人がゐるやうです。然し、公益優先とか國益優先といふのは、元來決して國民を犠牲にするための政策ではありません。國益優先といふのは、國益といふもの、國策といふものゝ中で國民個々の生活を立てさせようといふ政策です。いはゞ國策といふ枠の中、軌道の上で各個人が秩序正しく身を立てることにしようといふ政策です。

だがこんなことは、元來日本人にとつては當然なことではないでせうか。國家の立場を基本にして、その理想、その利益といふものを中心にして日本國民が自分の身を立てるといふことは、今更いふまでもないことだと私共は考へます。國益優先といへば、何だか國民は犠牲にせられるもので、怪しからぬことのやうに考へること自身が、どうかしてゐるのぢやないかと思ふのです。尤も、現在の經濟制度は、自分の生存の責任は自分で負擔しろといふ立て前になつてゐますから、自分の家族の病氣のためとか、子供の教育費等に對する考慮から、現在の世の中では、出来るだけ自分の財産を拵へてをかないと、自分が困らねばならぬといふ懸念がありますから、自然に公益や國益を尊重する前に、自分の私益の方により多く心を傾けるといふ傾向も生ずるのですから、その點については政府とし

ても、國民の最低生活の保證をはじめ、病氣に對する治療上の保護及子供の教育の保證等について、順次適切な改革を行ふ必要があります。然し、その改革が出来た上なら國益を尊重するが、その改革が出来るまでは私益優先でやつてゆくと皆んなが云つてをつたのは、到底時局を乗り切ることが出来ませんから、いはゞ國益優先の實踐については、勤皇の志士のやうな有志が出て來て、まづ矢表に立つて滅私奉公のお手本を示しながら、一般國民を指導していただくといふのでないと時局は打開出来ぬといふ次第です。明治維新の勤皇の志士も實はかういふ人々であつたのだと思ひます。

すが、下から盛り上つたやうな人物は少い。だからその人々のみに任せて置いては駄目です。國民全體の盛り上る力で具體的に支持してゆかねば駄目です。

十六 商人の新體制

國民各自がそれ／＼その職場から新體制への御奉公をするには具體的にどうすればよいか。皆さんは工業の方、商業の方、お百姓の方が大部分であると思ひますから、まづ商人の方が近衛さんの新體制運動を援ける爲にやらねばならぬことは何かといふことを研究してみませう。商人のやるべき差當りの新體制は「企業合同」です。御當地に於きましても、米屋の企業合同、呉服屋さんの企業合同等が既に實現したといふことであり、又最近はいちや一或はトラツクが企業合同をやるといふことで誠に結構に存じますが、商人の今やるべきことは、兎も角も企業合同が差當りのことであると私は思ひます。現在の日本は支那事變のために物資が不足して參つて、それだけでも商人の營業が成り立たぬことにならうとしてゐますが、その上に若し、アメリカの經濟壓迫が廣汎化しましたならば、日本の一般商人は中小工業者と共に、深刻なる影響を受けずにはをられません。或は何百萬人もの轉



業を必要とすることにならぬとは限らないのです。そこで今日只今から、さうしたことに
ついて充分対策を立てゝをかねばいけません。最近世間の人が中小商工業の合同や轉業問
題を少しづつ問題にしはじめましたが、まだ／＼甚だしく不十分です。

最近北海道に於きましては、企業合同の氣運が非常に旺盛です。恐らくその點では北海
道が全国一でせう。私も北海道へは隔月に一回平均ほど、ずつと參つて商業組合や産業組
合の方々に時局対策に關するお話を申上げることにはいたしてをります。

そも／＼將來の配給機構といふものは、必ず國家的な見地に立つ組織的な配給機構にな
るのであつて、今迄のやうな自由商業では無くなつてゆくものと私は見てゐます。そこで
北海道各地の人々は、米屋さんは米屋さん同士、呉服屋さんは呉服屋さん同士、魚屋さん
は魚屋さん同士がまづ合同するといふやり方を廣く實行しつゝあります。尤もこれは獨り
北海道だけぢやなくて、既に全国各地において大分出來はじめました。私が蔭でお手傳して
をる合同だけでも大分あります。ところが北海道の友達から最近到着した情報によります
と、北海道で最近、まだ全国に例のない新しい事例が生じました。それは北海道の日高國
の平取(びらとり)といふ村の商業組合のやり方です。この村はクローム鑛の取れる處であ

りまして、村に商人が百三十軒ほどあり、百三十軒で一年に百二十萬圓の賣上げをしてゐ
るといふ村です。この百三十軒が最近全部一つの組合に合同してしまふことになりました
た。即ち百三十軒の店屋が全部止めて、一軒の組合になるわけです。又、北海道の虻田郡
の喜茂別(きもべつ)といふ村におきましても、四五十軒の商店が一つになつてしまふ計畫
を企てゝゐます。商人の方々が企業合同(經營合同)をやりますと、勞力の節約が出来る、機
械が節約出来る、電気やガソリンが節約出来る、經濟事犯が防げる。凡ゆる點で國家的に
も或は個人的にも利益があります。東京府の米屋さんも最近企業合同を研究してをられ
ます。まだ全部は實現してをりませんが、然し全部實現すると一萬五千人の勞働力と、九
千臺の衡器、八千臺の精米機、八千臺の自轉車、四千臺のリヤカー、二千臺の電話機など
が節約出来るといふことです。大變な節約ではありませんか。又富山縣では賣藥の企業合
同を只今計畫してをります。私も蔭から少しお手傳をして居ります。若しこれが實現する
と、一千數百名の製藥竝に賣藥業者が一つの會社になり、一萬三千人の行商人が二、三千
人位で済むのではないか、隨つて一萬人近い行商人を他の生産業方面に廻すことが出来る
のぢやないか、又藥の原料も節約出来るものと考へてゐます。この合同も國家的に、或は

個人的に大きな意義のあるものと考へます。

唯、企業合同をやらうとする時に、よく考へてをかねばならぬことは、合同した擧句、剩つた人間をどうするかといふ點です。轉業先のことをよく考へてをかねばなりません。剩つた人々の轉業先といたしましては、商賣といふ部門は、今後はどの方面も大部分駄目になるのですから、全て生産業方面に行くのがよいと思ひます。即ち農業とか、時局向の工場鑛山とか、木炭の製造とか、薬工品の製造とか、漁業水産とか、或は滿洲移民に向ふといふのがよろしからうと思ひます。同じ生産方面でも贅澤品の生産は駄目です。必需品の方面でないといけません。それらを研究なさるには、充分御自身でもお考になると同時に、警察や縣廳や市町村役場等ともよく連絡をおとりになる。又東京などに居られる本縣出身の御先輩などの御意見もよく聞いて見られる。商業組合員全部が心を合して相談しても見るといふやうにありたいと思ひます。そして轉業するのも國家の爲、後へ残つて新しい配給事業に従事するのも全て國家の爲、後に残つた者が甘い汁を吸ふのでもなく、轉業した者だけが損をするのでもないといふ方式、即ち協同體精神に立つやり方でみんな充分に話合はねばならぬと思ひます。山梨縣の甲府に私の道友で米の卸屋をしてゐる人が居り

ましたが、その人は戦地から去年歸られた人です。その人が先般私の處に來られて、「日本の米の配給機構を整備するといふことは國家的に必要なことだと思ふ。だから自分は米の卸屋を止めてもかまわない。山梨縣の米の配給組織の整備に貢献してみたいと思ふ。」といふお話です。そこで色々相談致しまして、いろ／＼と考究いたしました結果、縣廳の方の御指導よろしきを得まして、山梨縣の米の配給機構が先般一應出來上りました。ところがその配給機構を作りましたために、甲府の町で數十人の米屋さんが失業せられました。この人々のために、よい轉業口を見付けねばなりません。そこでその人は又その問題につきましても熱心に奔走せられ、先日は滿洲移民その他の調査のために滿洲まで六七名の商人を連れて視察に行かれ、最近歸つて來られました。歸つて來てのお話によりますと、行つた商人全部が「滿洲の百姓はよい。」と云つて、口を極めて推奨してをられました。それらの人々は全部、近く滿洲に移住して農業をやられることになる筈です。要するに企業合同は是非やらねばならぬ。然し、そのために弱肉強食の合同にならぬやうに、又、轉業先のこと皆んなの共同負擔で考へることにしたいと思ひます。

十七 工場の新體制

次に、工場の新體制はどうするか。それは労働者と事業主が一つになつて、事業主ばかりが甘い汁を吸ふのでもない。労働者だけが賃銀を澤山取つてうまいことをやるのでもない。生産力を高めるにはどうすればよいか、労働者の健康を守り、技術を高める爲にはどうすればよいか、工場を潰さないやうにするためにはどうすればよいか、機械や原料や動力を大切にするにはどうすればよいかといふやうなことに、事業主も労働者も技術員も一つ心になつて研究し努力する。最少の資材で最上の製品を最多數に作り出すためにはどうすればよいか。さういふことを皆んな寄り合つて實現するために協同體精神を實踐するのが工場の新體制です。

先程も申上げましたやうに、この頃日本の労働界には、賃銀に恵まれ過ぎたために、却つて逆に労働能率が低下してゐる傾向が生じてゐるのでありますが、かうした頹廢的な氣

分は、産業労働の新體制で一括して欲しいものです。現在の日本はアメリカの經濟壓迫に直面してゐるが、これが若し強行せられたならば、日本の自由主義産業などは、片つ端から大きな衝動を受けずにはゐられぬ筈です。随つて、アメリカの經濟壓迫が強化したならば、全ての日本人は齒を喰ひしばつて、最少の資材と經費とで最大の生産を行ひ、難局を遡んで突破する氣持にならねば、その壓迫を排除し得ないだらうと考へます。吾々は工場主方面の決意と自覺とを促すと同時に、労働者側の自覺をも促したいと考へます。

尙、工業の新體制としてこの頃喧しくなりつゝある問題としましては、中小工場の整理といふ問題があります。歐洲大戰の影響のために日本の輸出入が阻害せられただけでも、わが中小工場は非常な苦境に陥りつゝあつたのでありますが、その上に、アメリカの壓迫が強化してまいりますならば、中小工場の没落は一層拍車をかけられ大量化するものも考へます。そこでこれらの工場の中、技術や設備のよくないものは整理合同すると同時に、技術や設備のよいものは、部分品の専門工場として大工場に結び付けることが必要であります。かうしたことを官廳も努力すると同時に、業者にも自主的に努力していただくことが必要です。それが工業者の新體制への協力だと考へます。

十八 農業の新體制

農村におきましては、部落を單位として人々が一心一體となる。即ち神社を中心として協同體精神で結合しまして、土地の生産力を高めるといふことを主眼として最善の努力をするといふことが新體制の中心題目だと思ひます。將來の社會におきましては、生産者は生産者で一つの組織を作り、配給業者は配給業者で一つの組織を作る。又、消費者は消費者で一つの組織を作る。かういふことになるものと考へますが、農村におきましては、生産者の組織である部落の組織はそのまま消費者の組織になつてゐます。だから、部落は物資の生産の單位であると同時に配給を受ける單位となればよいわけです。

農業或は農村の新體制といふことを専ら所謂「團體統制」のことだと考へてをるものがありますが、農業の新體制といふことは、さういふ組織上の形式だけをいふのではないと考へます。然し、組織の點につきましては、農會と産業組合とを一元化してゆくといふやう

なことは、たしかに生産者の組織を統合するといふ意味において大切なことと考へます。これを一度に統合出来ないならば、差當りは兩方の役員を一人の人が兼務して、事實上の統合を計るのもよいのぢやないかと考へます。

農村の新體制といふことは、獨り經濟上の新施設を講ずるといふことだけではなくて、農村の行政機構そのもの、改革をはじめ、食生活や育児等の改善及社會慣行の改善等をも包括し、協同體的農村新文化の建設といふ廣い見地で行ふべきものでありますから、所謂部落協同體の建設といふ精神で、凡ゆる點において舊殻を脱却して新生面を開拓いたしたものと考へます。それがやがて大東亞民族協同體建設の基礎となるのであります。日本はこの頃莫大な額に上る外米を輸入してをりますが、外國の米など唯の一升も買はないやうにして、さうして軍需向の必要なもの或は輸出用の原料を購入するやうにしたいと考へます。そのためには、耕作者は食糧品その他國家經濟上緊要缺くべからざるもののみを耕作し、不急不要の作物をなるべく作らぬことにしたい。又肥料や農機具の使ひ方なども、さういふ精神において、部落が協同して、最も國家的に、最も效果的に使ふことにしたいと思ひます。

次に、従来農村に於ては、地主と小作人との関係がなか／＼難しい方面があつたのでありますが、これは今後は根本的に調整せられねばならぬと思ひます。要するに今後は土地の生産力を高めるといふことが農業政策の中心にならねばいけないのですから、地主も土地から擧つた利益を収奪したりしないで、それを土地の改良とか、農具の改良などに注ぎ込まねばなりません。それを地主がどうしてもやらぬといふことになると、地主制度そのもの、廢棄が問題になつてゆくのだらうと思ひます。尤もこれは昔の農民運動などの精神とは違ふのでありまして、地主を苦しめて小作人に甘い汁を吸はせるためにやることではありません。要するに國家の必要とする食糧品を出来るだけ澤山採るために行はれるわけです。だからそのために地主が困れば、それは又別の方法で善處せらるべきであります。

土地制度の根本的改革はなか／＼容易でありませぬので、差當りは小作料の調整を計り、「適正小作料の設定」といふことが問題となり、既に北海道などでは小作料が三割も引下げられた方面がありますが、その利益が土地の生産力増進に活用せられることになりま

結語 時艱克服の鍵

今や日本は上述いたしました如く、有史以來未曾有の難局に當面してゐます。特にアメリカの日本に對する經濟壓迫が強化せられましたならば、日本の經濟、就中中小工業及商業は極めて深刻な影響を受けるであります。數百萬の中小工業及商業關係者は、雪崩を打つて轉業しなければならぬことになる可能性が充分にあります。さうしたことが若し起るならば、それは獨り商工業者の問題のみに止まらぬ筈です。

かくて日本は今や極めて重大なる難局に逢著してをるものと申さねばなりません。この秋に當り、この難局を打開し得る鍵はどこにあるでせうか。かつて明治維新の時には多くの勤皇の志士が各藩から出て、身を犠牲にして日本を磐石の安きに置くために働いてくれました。昭和維新の實現のためにも、喜んで「縁の下力持」をやる有志が各方面に現はれなければならぬのだと私は思ひます。各職場の中に、各組合の中に、各町村に、各工場

に、昭和の新體制を實現するために、喜んで縁の下の力持をやる人物が競ひ起つて、協同體建設の埋石となり、計畫經濟體制建設の推進力とならねばなりません。時局は寔に重大あります。お互に國家のために最善の誠を捧げることにはいたしたいものと考へます。

(終)

附

新體制に對する誤解と正解

一 は し が き

この頃地方の會合に出てみて、一番多く接する質問は「新體制とはどんなことか」といふことである。しかもこの頃地方では、子供までが「新體制」を口にしてゐる。しかるにまだ、判つたやうで判らないのが新體制だといふことになつてゐるのが民間の實情である。そこから、いろいろな誤解も生れて來る。

地方の人々は、眞劍になつて新體制について指導を求めてゐる。然し誰も彼等を満足させるやうな指導を與へて呉れない。そこで彼等は迷ふ。揣摩臆測はそこから生れる。地方の人々はこの頃では、新體制のために相當に強力な命令が下つて來るとしても、時局を辨へて附いてゆかねばなるまいと、一應の肚を決めかけてゐる。然し、一向明確な方向が示されないし、安心して附いてゆける指導も與へられないので、いはゞ灰色の焦燥に陥つてゐる。殊に商品の不足と配給の統制とのために生業に行詰りを感じはじめた商人層や中小工業層の焦慮には、見る目にも氣の毒なものが多い。彼等は昨今殆んどお先眞つ暗な氣持に陥つてゐる。企業合同をしると云はれても、果して企業合同をすれば將來の生計が確保

され得るものかどうかについても、まだ十分に納得が出来ない者が多いし、又、自由商業の將來の運命についても、まだ彼等は割り切り難いものを持つてゐる。なぜなら、彼等は事變發生以來、常に「事變は間もなく片付く。そして事變が片付きさへすれば、又元のやうな自由經濟の時代に復るのだ。」といふやうな話を絶えず聞かされて來たのだから、彼等の頭の中には、さうした考へ方が染みついてゐる。かうした傾向は獨り商人層のみならず、今日の民衆の大部分の氣持である。そこから民心の低迷と遲疑とが生れる。要するに彼等は從來、あまりにも時局の大勢について不正確な指導を與へられ過ぎたのである。それでも然し彼等は善良で、まだどこからか何等か好い指導が示されるものと、只管に待望してゐる。

然し、かうした低迷と焦燥の中から生れる足搔きと私語は、屢々流言となり、誤解となり、中傷となり、善良な人々をも途惑はせることになる。新體制に關する明確なる指導が一日も速かに爲されなければ、民心の低迷は益々深刻化せざるを得ない。新體制はなぜ必要か、新體制の心構はどうか、新體制とは具體的にはどんなことか、新體制について國民の一人々々は何を實踐すればよいのか、又その方法等について彼等は明確な指導を待つて

ゐるのである。

二 抽象的と具體的

新體制についての指導について、今民衆一般が物足らなさを感じ、ひどくもどかしく思つてゐるのは、新體制についての講話や文章が全て抽象的で、少しも具體性がないといふことである。

新體制は日本の國體原理に立脚しなければならぬとか、公益優先でなくてはならぬとか、應召の氣持で當らねばならぬといふことについては、彼等は十分に聞かされてゐるし、又さうでなくてはならぬだらうと、肚を決めかけてゐるのだが、さて具體的にどうすれば、國體精神を發揮したことになるのか、又どうすれば公益優先の精神に副へるのか、ハツキリと飲み込めないのである。

では、新體制の抽象論と具體論との關係はどういふ風に見るのが正しいのか。

(1) 新體制の構想については、何と云つても、その最高指導原理を瞭にすることが肝要である。何分にも從來の日本の政治經濟は、とかく西洋的なものに引摺られる傾向

があつたのだから、それを綺麗に一洗し、純乎として日本的な精神を復興し、そこから出發して一切の構想を組み立てなければならぬ。その意味において新體制の指導が、まづ抽象的な理論から出發することは、決して誤つたことはいひ難いのである。むしろ在來の新體制理論には、まだ／＼甚だしく検討が不充分であり、不明確である部分が多い。世間のインテリなどの中には『抽象論はもういゝから、早く具體論を聞かせて呉れ。』といふやうなことをいふものがあるが、それは非常な間違ひである。新體制の理論は今のところまだ充分でもなければ、まだ明確になつてゐるのではない。抽象的な理論の究明もまだ極めて不充分で、舌足らずの一知半解の國體論や皇道論が、まだ／＼世上に蔓つてゐるのである。その意味において具體論が提出せられぬからと云つて、抽象論を不要視することは危険である。

(2) 尤も、だからと云つて、單に抽象論ばかりを何時までも振り廻されるだけでは、それがいかに立派な抽象論であつても、民衆は途惑はざるを得ないのである。況んやその抽象論なるものが、舌足らずの抽象論である場合においてをやである。そも／＼正しい指導理念なるものは、必ず正しい具體性を持つてゐなければならぬ。例へば

立派な人間の精神は立派な形をとつて日々の行爲の上には現はれるやうなものである。そこで新體制の理念も、それが正しいものである限り、全て具體性を持たなければならぬ。例へば、舊體制の經濟觀念を捨て、お上に歸一し奉る精神において新體制をとらうとした場合、産業組合はどうすればよいか、農會はどうすればよいか、商業組合はどうすればよいか、工場における資本家及労働者はどうすればよいか、等々、具體的な究明が存在しなければならぬ。具體性のない政治とか經濟とかいふものは、この世の中に存在しないのである。悪い觀念に立脚して政治經濟を扱へば、政治や經濟が具體的に腐敗するし、立派な觀念によつて扱へば、具體的に政治經濟は必ず立派になる。故に新體制の指導に任ぜんとするものは、一方、理論的方面の究明に努力すると同時に、他方、具體的實踐の方法及目標についても亦、速かに闡明を期しなければならぬ。

三 新體制と「赤」

世間には「新體制は赤だ」といふやうな誤解を持つてゐる人間がある。なるほど新體制

とか、翼賛運動とかを口にしてゐる人間の中に、唯物主義的傾向を持つてをつたり、國體精神を正しく會得してゐない人間はをるかも知れぬ。しかし、だからと云つて新體制を赤だといふことが承認せられてよいだらうか。新體制を妨害し、舊體制を維持したいと考へてゐる人間は、新體制を赤だと中傷することに利益を感じてゐるかも知れぬが、吾々はその詐術に掛つて、國史の發展を妨害してはならない。

そも／＼新體制が何故に赤であるか。それらの人々は恐らく、新體制は共產主義の構想に似てゐるといふのだらう。ではどこが共產主義に似てゐるか。

(一) 従來わが國の自稱國體論者、自稱愛國主義者なるものの中には、わが國體精神と經濟機構とは無關聯のものかの如くに考へる傾向が強く、國體觀念とか、日本精神とかは霞を吸ふて生きてゐるもので、現實の經濟生活とは關係が無いものかの如くに考へるものがあるのである。彼等は、日本精神や國體精神を經濟機構と關聯させて取扱ふといふことは、社會主義にかぶれたもので、それは日本精神の冒瀆であるかの如くに考へるのである。そして國體精神を神懸りのやうな態度で論ずることのみが、純日本的であるかの如くに彼等は考へる。

だが、これ位大きな錯覺はない。日本の國體政治が立派であるといふのは、決して經濟生活や經濟機構を無視する意味において立派なのではなくて、經濟生活も社會生活も政治生活も、わが國體の理念によつて立派に具體的實質的に創造せられ、執行せられてゆくが故に、そこにわが國體の有難さがある。人間の實際生活と關聯のない精神などといふものは、人間の世界では重要性がないのである。随つて、經濟機構の變革を論ずるが故に新體制が赤であるといふならば、それが誤りであることは自明である。

(二) 次に、新體制は人間の協同を論じたり、生産の計畫化を論じたり、配給の社會的合理化を論じたりするから、それで赤だといふならば、それも非常な短見である。この問題を究明するためには、まづ日本が當面してゐる國內經濟上の困難はどこから發生してゐるかを吟味してかゝる必要がある。吾々はその根因が國民各自の個人主義性に存するものと確信してゐる。即ち現在日本の工業生産を停滯せしめつゝある根因は資本家と勞働者との個人主義（利己主義）であり、食糧生産を停滯せしめつゝある根因は農民の個人主義であり、配給を混亂せしめつゝあるものは商人の個人主義であり、交通道德を混亂せしめつゝあるものも旅行者の個人主義である。その意味において現在の日本は各人の個人主義

性を拂拭し、協同體精神によつて各職場、各職能の協同性を高め、物資の不足の中にも、せめて出来るだけでも生産の擴充と配給の整備とを計らざるを得ないのである。人間の生活に組織性がなく、民衆各個が所謂自由放任で、放埒状態に置かれてゐるのでは、消費の計畫も立たぬし、生産の計畫も立たないのである。消費の計畫や生産の計畫が正確に立たなくては、物資や勞力の不足な時代に、能率的な經濟を營むことは出来ない。随つて、個人主義經濟の行詰に到達してゐる今日の日本がそれを克服する方法として協同化した經濟體制をとらうとするのは當然のことである。

人間の生活には個人が各個バラ／＼で生活する方法と、二人以上の人間が協同して生活する方法との二つの方法があるが、在來の日本は明治以來、前者の方法、即ち各個人がバラ／＼で互に自由競争して經濟を營むといふ自由主義經濟・個人主義經濟の方法を採つて來たのである。ところがそれが周知の如くに行詰つたから、今度は後者の方法、即ち二人以上の人間が部落、或は工場又は職場等を單位として固つて仕事をしてゆく方法を探ることにするのである。世間には、個人主義的・自由主義的なやり方はまだ根本的には行詰つてゐないのだから、修正すればまだ何とかなると考へてゐるものもゐるが、今日、行政の

バラ／＼や、配給のバラ／＼、海運のバラ／＼、鑛區のバラ／＼、労働組織のバラ／＼などのために、如何に日本が困り抜いてゐるかといふことは、少しく實情に通じた人なら、みんな知悉してゐる筈である。同時に、個人主義を修正すれば、まだ何とかなるといふが、その『修正する』とはどういふことかと云へば、實は『協同性と計畫性とを高め、個人主義性を削減して行く』といふことなのである。自由主義經濟の修正としての現在の統制なるものが、現に協同體的經濟、計畫主義的經濟の性格を強めつゝあることを見れば、その間の消息を理解することが出来る筈である。

(三) 更に、新體制は赤ではないかといふ謬想を克服するために必ず言及してをかねばならぬことは、そも／＼吾々にとつて第一義的に必要なことは、『或る事がソ聯のやり方に似てゐるかどうか』に對する判断ではなくて、『それが日本の建國理想から見て正しいことかどうか』であり、同時に、『どうすることが日本の國民性に適するか』であり、又『どうすれば日本を大東亞共榮圈の指導者たらしむることが出来るか』でなくてはならぬといふことである。即ち吾々のやることについて、それが何處のどの國に似てゐるとか似てゐないとかの判断をすることが第一義的に必要なのではなくて、自國の本領から見てど

うすることが正當であり、どうすることが有利であるかといふことを判定することが第一義である。吾々にとつて一番必要なことは、わが國體を忘れぬことである。わが國民性に立脚してわが國威を發揚し、國力を強化し國策を遂行することである。隨つてこの見地から割り出した政策であり、それが適正なものである限り、それが獨逸に似てをらうが、イタリーに似てをらうが、ソ聯に似てをらうが、そんなことは謂はゞどうでもよいことである。日本のやることは、日本の國體から見て國威の發揚から見て、大御心に即してをりさへすればよいのであつて、それがどこの國の何に似てゐようと、吾々日本人にとつては、大した問題ではないのである。

(四) 尤も新體制を赤であると云はれるのには、多かれ少かれ、さうした缺陷が幾分でもあるから云はれるのだとも云へるのだから、新體制の指導者の側も、反省してみる必要はあらう。と同時に、之を非難してをる側においても、唯單に新體制を赤だとなして、之を攻撃するのみでは、問題は一向片付かないのだから、若し赤だと云ひ得るやうな間違つた點があるなら、それを是正せしめ、適正な精神と方法とによつて、一日も速かに眞の新體制が實現するやう、最善の努力を拂ふ必要がある。建設性のない無責任な批判や非難は

この際差控へることとして、吾々は建設のための批判、建設を速かならしめるための提言を旺盛にすべきである。

四 新體制と憲法

世間には、新體制は憲法の精神に反するのではないかと危惧してゐる人間がある。なるほど世間には、從來の政黨政治の腐敗を見せつけられた結果、議會制度そのもの、價値までも輕視しようとする傾向を生じてゐるし、又、翼賛會といふものを議會以上の議會かか如くに錯覺して、翼賛會が出来たら、議會制度などは無視してしまつてもよいものかか如くに考へてゐるものもをるやうだから、さうした警告が現はれることも、一應意義あることと考へられるのである。

然し、だからと云つて翼賛會の出現や新體制の動きを捉へて、頭から憲法違反呼ばはりするとするならば、それはどうかと思はれる。むしろ翼賛會や新體制の動きは憲法の精神を明徴にし、憲政の本義を貫徹するために起された運動であつて、それが本質的に憲法と低觸すべきものでもなく、又低觸せしむべきものでもない。現在の日本は、徒らに物慾に

扱はれた利己主義的・個人主義的・自由主義的「俗論」が横行し、憲法の本義を冒瀆してゐるから、その醜狀を根本的に革正して物慾に捉はれない愛國的・滅私奉公的「正論」を振起し、眞に憲政の本義たる「公論」を世に勃興せしめんがために結成せらるゝものが翼賛會であり、新體制運動である。随つて新體制の運動こそは、憲法の本義に反するどころか、憲法の眞精神を恢弘するための運動であると云ふべきである。

右の如き意味において、譬へ翼賛會が中央及地方に出來たからと云つて、それで帝國議會が無視せられるわけでもなければ、地方の縣會や市町村會の權能が無視せられるわけでもない。むしろ翼賛會の成立とその活動とにより、帝國議會や地方議會は、ますますその活動を活潑化し、本格化すべきものと考へねばならない。

尤も、そも／＼帝國議會や市町村會といふ民論（輿論——公論）の府があるのに、その外に又翼賛會とか協力會議といふやうな新しい民論の中軸機能のやうなものを設けねばならなくなつたのは何故かといふことについて、中央及地方の各議員達は深く自ら省る必要がある。若し、中央及地方の議員達が眞に正しい民論を代表し、天下の公論（俗論に非ず）を常に正しく、そこに反映する役割を果してゐたとするなら、恐らく議會以外に民論を反

映せしむるための機關（下意上達機關）を設置する必要は生じなかつたであらう。その意味において吾々は、翼賛會側の認識に過誤なきを求むると同時に、議員側の反省と自覺とを求めること切である。

五 新體制とナチス

日本の現状が新體制化を必須としてゐることについては、國民の大部分は臆げながらも大體に認識してゐる。然し、その實現の手段や方法が或は獨逸のナチスの機械的な模倣に墮するのではないかといふことについて、心ある人士は懸念してゐる。

なるほどナチス出現以來の獨逸の復興と、その躍進には多くの國民が非常な注意を拂ひ、その業績の中から學ぶべきものを學ばねばならぬといふことについては、國民の大部分が首肯してゐる。然し、獨逸には獨逸の國情があるし、日本には日本の國情があるのだから、獨逸の手法をそのまま機械的に輸入するといふことについては、嚴重に警戒を要するものと考へてゐる。

ナチスのやり方の中で、現在の日本人が機械的模倣に陥り易い主なる點を指摘すると、

第一に獨裁的な政治の仕方であり、第二は強權的な經濟統制の仕方である。

まづ第一の獨裁的な政治により、ナチスが非常な成績を擧げてをるのを見て、日本國民の中には、日本もナチス流に強力な獨裁制を採れば、それで直ぐにも政治的統一が出来るものかの如くに考へて、偶々政治的支配權を掌握したものが、唯強力に權力を行使しさえすれば、それで優秀な國民統一が出来るかの如くに考へるものが少くないのである。然しこれは非常な錯覺である。強力なる政治的支配權といふものは、偶然的に支配的地位に立つたものが、唯強力に權力を行使しさえすれば成立するものではない。それは國民全體の中に根を卸したものととして、國民全體の中から生れ出でたものとしての人物が、國民の總支持の上に大命を捧じて支配的地位につくといふのでなくては、到底強力たり得ないのである。素よりその場合における國民全體の總意とか、總支持とかは、決して西洋流のデモクラシーでもなければ、利慾中心の俗論的支持でもないことは既述の通りである。即ち、強力なる統制力とか政治力とかは、單に偶々支配的地位についてをるものが強力に強權を振り廻すといふことではなくて、正論としての民意によつて全國民から推し立てられた盡忠報國の人物が大命を拜して政治指導の地位についた時にはじめて實現されるのである。

かゝる意味において吾々は、ナチスの外形に捉はれず、ナチスがよく國民の支持(投票)によつて獨逸の支配權を握るに至つた経路を吟味するところがなければならぬ。

次に、ナチスの經濟統制が強力なる所罰規程に裏附けられてをるのを見て、世人の中には、日本の經濟統制も嚴罰主義にしさへすれば、それでうまくゆくのではないかと考へてゐる人間がゐる。然しそのことについても、吾々は、獨逸の經濟統制が何故にうまく行つてをるかについて、もつと仔細に研究してみる必要がある。

獨逸の經濟統制がうまく行つてをる原因を吾々は次の如くに觀察する。

- (1) 政治的指導力が確立してをるために、經濟統制の大方針が動搖することが少い。
- (2) 經濟統制の技術も民衆的に巧妙に考慮せられ、且つ科學的能率的に組織立てられてゐる。

- (3) 經濟統制の違反に對する處罰も極めて嚴重にしてある。

- (4) わけても大切なこととして、獨逸においては、民衆自身の間政府の經濟統制に進んで協力しようとする氣持が強い。

随つてナチスの如く、又はそれ以上に巧妙に經濟統制を實施しようとするならば、産業

の経験者中の最徳望者にして最有能者を産業の諸要衝に當て、且つ違反者には嚴罰を科することになると共に、他方一般民衆の經濟觀念と對國家觀念の根本的革正を計るための一大啓蒙が行はなければならぬ。民論そのもの、根本的是正を忘れて統制技術を云々したり嚴罰主義を云々したりするのは、源を清むることを忘れて末のみを清めんとするものであり、砂上に樓閣を建築せんとするものである。

六 新體制と私益

新體制の根本理念の一つとして世上に提唱せられつゝあるものゝ中に『公益優先』なる標語がある。この標語に對して世人の中には割り切り難い氣持を持つてをるものがあつてある。

固より日本人は公益尊重の精神に反對するのではない。然し『現在の社會は私益を擁護してをらなければ、自分自身の身が立たぬといふ立て前の制度になつてをるのであつて、徒らに公益を考へてをれば、自分も食へず、家族も養へず、療病も出來ず、子供の教育も出來ないではないか、個人主義制度の社會においては、自分の生活の責任は自分で負擔せ

よといふ立て前になつてゐるのだから、吾々は自分の私益を守つてゐなければ、自分自身が滅びざるを得ないのだ。』といふのが、それらの人々の氣持である。

そこで、公益優先はまことに結構だが、吾々は公益優先のために何から手をつけたらよいか、又、吾々が公益優先に踏み出した時に、若し吾々の生活が立たなくなつたとしたならば、國家か或は社會は吾々の生活を保證して呉れるのだらうかといふことを、それらの人々は危惧するのである。この問題については筆者は次のやうに考へる。

(1) 公益優先（國益優先）といふことは、決して個人を亡ぼしてしまふといふことでもなければ、無視するといふことでもない。それは云はゞ全ての個人に對し、『國策といふ梓の中から足を食み出して私益を追求しようとするな。』『私益を追求するためには、國益といふレールの上から逸脱するな。』『國家公共の大方針に完全に副ひながら、自己の生活を立てる工夫をせよ。』といふことを要請してゐるのである。

(2) 公益優先を求めてをるからと云つて、それは決して一舉に各人の身が亡びてしまふやうな、飛躍的な御奉公を求めてをるのではなくて、各自が差當りに實踐し得る範圍での最善の御奉公を求めてをるものと解すべきである。それは、あまりにも極端な

ことを求めてをるものと解するのは至當でない。ところが從來あまりにも『私益至上主義』で生活して來た利己主義者は、とかく公益優先と云へば、直ぐに『俺れに死ぬといふのや』といふやうに受取り易いがそれは自分自身があまりにも過去において私益中心であり過ぎたことから來る錯覺である。

(3) 眞に公益優先 (國益優先) の精神を職場や工場や組合や業者の中に實現することは、實はなか／＼容易なことでないといふ。そこで公益優先の精神を社會に實現するためには、どうしてもその精神を衆に先んじて實踐し、進んで民衆のために進路の開拓に任じるといふ有志の士が現はれて來なければ、到底實效は擧らない。筆者はかうした人々を新しい勤皇の志士と見てゐる。明治維新のためにも、身を皇國の進運のために捧げた勤皇の志士が隨處に現はれ、衆に先んじて回天の偉業のために努力して呉れたのであつたが、昭和の維新・昭和の新體制の實現のためにも身を殺して、まづ國策に順應し、その身邊、その脚下から新體制を育て上げて呉れる縁の下の方の志士が現はれなければならぬと吾々は考へる。

七 新體制に對する誤れる期待

現下の國民は皆、新體制と翼賛運動とに非常な關心を掛けてゐると云つてよい。然しこれらの關心と期待を分析してみると、多くの謬見と迷蒙とが潜んでゐる。

(一) まづ第一に新體制又は翼賛運動に對する今日一般の民衆の關心を分析すると、大體において二つに分類することが出來よう。即ち一は、新體制又は翼賛運動によつて舊體制が根本的に革新せられ立派な社會が實現せられるであらうといふので、そこに多くの關心を拂つてをるものであり、二は、若し新體制が實行せられたならば、自己の立場に不利が生ずるのではないかとの懸念から、それに對して大きな關心を拂つてをるものである。

前者の場合にはまづ一應無難と云へるが、後者に對しては嚴重に再吟味を加へてみなければならぬ。『自己の不利益をなるべく避けるために新體制に關心を拂つてをる』といふのは困るのである。さうした態度の中からは何等の建設も生れない。現在の日本國家並に國民にとつて最も必要なことは、進んで新體制を建設するために、最善の工夫を積み、最善の努力を拂ふといふことである。その意味において吾々は、それらの人々の根本的反省を

求めなければならぬ。

(二) 次に別の観点から新體制に對する「期待」を分析してみると、そこにも多くの錯誤が潜んでゐる。即ち今日國民の大多數は皆、新體制の實現に期待を掛けてゐる。然しその期待の中には、若し新體制が實現すれば、自分達の生活の或る部分が少しでも有利になるのではないかといふ風に考へた期待が織り込まれてゐる場合が少くない。

然し吾々の見るところによれば、新體制が實現したならば、國民各自の生活が今より有利になるどころか、全體がもつと犠牲を拂ふことにならねばならぬものと考へる。例へば今日の米作農民は米價の割安のために大分不利な立場に立たされてゐるが、では新體制になれば米價は引上げられるかといへば、彌縫策が出て來ぬとは云へぬが、むしろ米價はそのままとしてをいて、他の方面の割高の物資の價格の方が引下げられると同時に、農家に向つては、米・麥その他の食糧増産のために、もつと勤勞と御奉公とを強く要請することにする方が本當である。又恐らく、商人は自由營業を止めて企業を國策的に合同し、過剰人口は生産方面へ轉換することを益々要請せられることになるであらう。尙又勞働者あたりで高給賃銀を取つてゐる者は、恐らく或る程度賃銀が引下げられ、しかも勤勞は倍加を

要請せられるものと考へてをく方がよいやうに思はれる。かうした調子で、新體制の實現のためには、全ての國民が一層國家のために犠牲にならねばならぬのである。尤もこのことは、決して國民全體を不仕合にするために爲されるのではなく、永い目で見れば國家と國民と一層の繁榮のために行はれるのだから、國民としては、犠牲の拂ひ甲斐があるわけだし、又各人の犠牲の拂ひ方も、結果においては國民相互の間の不均衡を是正して、所謂一部のものみをして利益せしむることを避け、餓えるならば共に餓え、榮えるならば共に榮えろといふ原則が實現することになるのだから、新體制のために各人が今日よりも一層の犠牲を拂ふことになつたとしても、國民相互の間の氣分は、今よりもつと明朗性を取戻し、もつと安定した氣持を味はふことが出来るであらう。新體制を實現して、各人がもつと均衡のとれた關係において國家のために夫々犠牲を拂つてゆくといふことは、戦時下の日本國民としては當然のことである。随つて吾々の新體制に對する期待は、わが身の直接の幸福のための期待ではなくて、國家と子孫との幸福のための期待でありたいのである。

八 新體制と國民の自主性

新體制の實現について、現在國民の大多數はあまりに過度の「中央依存」に陥つてゐる感がある。それはどういふ意味かと云へば、今日國民の大多數は、「新體制は中央のみから與へられる」ものかの如くに考へ、「今に中央から何か云つて來るであらうから、それまではあまり先走りせず待つてをらう。中央からいふて來てから動いても遅くはないのだ。」といふ風に考へ、ひたすら中央の處置と指導とのみを待つてゐるといふ傾向があるといふことである。中には、「今に中央から何か云つて來るだらうから、それまで待つてをらう。あまり先走り過ぎて國策に順應などしてをると損をするから……。」といふやうな利害の打算で中央からの指令を待ち、なるべく損をしないやうに身構をしてをるといふ待ち方をしてをる人間も少くないかも知れない。

國民の大多數がひたすらに中央からの指令の來るのをちつと待つてをるといふ態度は、一面から云へば極めて従順なよい態度と云へるのであつて、強ちに悪いことだとのみは云へない。然しそれは他面から云へば、國民自身の自主性、獨立性、創意性の缺乏であり、

國民自身の無氣力を曝露せるものだとも見ねばならぬ。國の政治は單なる國民の従順さだけでは向上し難いのであつて、國民の各自が夫々自主的に國家を下から推し上げる如くに守り立て、推し進めてゆかなければ、家は到底發展し得るものでない。殊に國家の樞要なる地位についてゐる人物に指導性が缺如してゐる時代においては、特に然りである。現在の日本は明治維新にも匹敵すべき大維新を實現する必要に迫られてゐるが、その時に當り國民の全てが徒らに中央のみに依存して、自ら國家の難局打開に當らんとする氣概を失つてをつては、この大業は到底完遂し難いのである。

「臣道實踐」といふ言葉にしても、それは決して單なる従順を獎勵するための標語ではない。臣といふ字を、單にお上の御命令を聞く存在と解釋するのは、いはゞ封建道德的解釋であつて、個人の人格の自立を基本とする憲政下の國民の解釋ではない。況んや封建時代においてすら、眞に自覺のある士は、臣道といふことを單なる形式的従順の道とは解釋しなかつたのである。例へば佐賀の鍋島藩の先哲山本常朝先生の「葉蔭論語」を見よ。先生はいはゞ封建道德の提唱者であるが今日の吾々に對しても深刻なる反省を求める數々の言葉を遺してゐる。その遺訓の中に、「臣としての忠は諫に盡きる」といふ意味の言葉があ

る。その意味は、臣としての道の極致は、單なる従順ではなくて、君に對する積極的進言でなくてはならぬといふのである。先生は「臣として君の馬前に討死することは大して困難でないが、疊の上において日常、君を諫め奉り、君の政を翼け奉るために積極的に正しい進言を申し上げることは、よほどの修養と見識とがなくては出来ないことだ」といふことを強調するのである。封建時代においては、特にその通りであらうと思はれる。然し、忝くも昭和の聖代においては、憲法の下、言論の自由は原則として認められてをり、苟くも國策に反せざる限りは、政治に對して積極的提言の機會が均等に與へられてゐるのである。この機會を自ら使用せんとせずして、徒らに中央のみに依存せんとするのは、少くも自覺の不足を曝露せるものと云はざるを得ない。

固より吾々は中央の指導と統制を不必要なりとするものではない。その必要をむしろ何人よりも強調したいと考へる一人である。然し現に指導力の低下せる中央のみに依存することは、却つて祖國の福祉を増進する所以にあらざることを、あまりにも知悉するが故に國民各自各層の自主的努力を要請するのである。中央に對しても、一層の努力を要請するものであることは、固より當然の話である。

世間には、「吾々民衆が大いに國策を論ぜんとしても、現在は言論の自由が奪はれてをりいふべきこともいひ得ざることになつてをるから、自主性を發揮せよと云つても、發揮し得ないではないか。」と愚痴る人間があるが、それこそ無自覺といふものである。毎月々々發行せられつゝある「中央公論」とか「改造」とか「日本評論」とか「文藝春秋」とか、汗牛充棟も嘗ならざる雑誌をはじめ、「朝日新聞」や「日日新聞」等々の言論機關が、毎月、世上に泛濫するほど發行せられつゝあるではないか。これらの言論機關や執筆者達が營利主義的打算や時流に溺れることなく、又権力や大衆に詔びることなく、熱烈なる國民的道義心に立つて建設的言論の機關としての役割を果すならば、決して國民はニヒリズムにはならないのである。執筆者や發行者自身が建設性を缺き、營利の打算に捉はれたり権力に詔びたり、大衆に詔びたり、廣告主に遠慮したりしつゝある無自覺を棚に上げて「言論の自由が無いから、書きたいことも書けないのだ」とは何事か。むしろそんな無自覺な人間に勝手な熱を吹かせたら、恐らくデモクラシーの幽靈の如き時代遅れの言論が世上を横行することになるのであつて、その限りにおいてはむしろ、時代遅れの怪け物を巷間に現はれしめないために、無責任な非建設的言論などは、押へてしまつた方がむしろ國家

のためである。

九「下意上達」の本義

新體制は上意下達と下意上達の十全を計る體制であると云はれてゐるが、そのことに關聯して近來「下意上達」を計るといふのはデモクラシーではないか。とか、或は「下から盛り上るといふ思想は階級思想ではないか」とか。或は又「日本の國においては上とか下とかいふやうな言葉を使ふのは間違つてゐるのではないか。日本では上下の差別はあるべきでないのではないか」といふやうなことをいふものが現はれてゐるらしい。然し凡そ、これほど馬鹿氣な議論があるものでない。

(1) まづ第一に、そも／＼日本において「上」とはどなたを指して申上げる言葉であるかを吟味してみねばならぬ。いふまでもなく日本においては上とは 上御一人を申上げる。随つて日本においては上と申上ぐべきは 聖上陛下御一方だけであつて、その他全部、下でなくてはならぬ。即ち日本においては嚴密に申せば、上と申上ぐべきお方は御一方だけであつて、その他全部「下萬民」である。大臣と雖も農夫と雖もル

ンペンと雖も皆これ臣下である。明治維新における「四民平等」の本義を吾々はこの際想起する必要がある。

先般紀元二千六百年の御祝典に當り、畏くも高松宮宣仁親王殿下におかせられては御親ら式殿前に立たせられ、天皇陛下に對し奉り、二度までも「臣、宣仁」と仰せられたが、忝くも金枝玉葉の御身を以てしても、日本においては、天皇陛下に對し奉る限りは「臣」にまします。かくの如き意味において、日本においては上意の下達とは、陛下の大御心が遍く下萬民に達するをいひ、下意の上達とは、下萬民の微志と衷情とが 上御一人の御上聞に達することをいふのである。随つて下意が上達せられなくては 陛下は萬機を公論に決し給ふための輔翼を受け給ふ途を失ひ給ふが故に、臣下としては、常に下意がよく上達するやう注意し、戒慎の上にも戒慎を加へなければならぬのである。

(2) 下意の上達を計るといふことは、デモクラシーではないかといふのは、その人自身がデモクラシー以外の理解の仕方を所有してゐないことを曝露せるものと云はねばならぬ。上述の如く日本においては、下意の上達とは國民の總意が常に充分に御上の

御上聞に達するためのものであり、同時に、國民が「下から盛り上げる」といふのは、デモクラシーのやうに自己の利益を追求したり、自己の所屬する組合や地域の利己主義的利益を追求したりするために盛り上げるのではなくて、天皇陛下に忠義を盡し、國家に貢献するために盛り上げるのである。それを國民が下から盛り上げると云つたら、直ぐにそれを階級思想であると錯覺するのは、その人自身に國體政治の認識が不足してをることを曝露してをるのである。固より現在の國民の中には、階級的な偏見や、自由主義的な謬見に陥つてゐる者も多いのだから、それらの者達が淺薄な見解から階級思想や民主思想を加味したやうな意味で下から盛り上げるといふことを云つてをるのに對しては、これを徹底的に是正してやらねばならぬことはいふまでもない。然し、下から盛り上げるといふことは直ちに日本の國體に反するなどといふのは、國民の自主的自發的、創意的建設の氣運の生起を妨害する危険があるから、深く戒しめる必要がある。

(3) 上とか下とかいふ差別的言葉を使ふのは日本の國體に反するといふものがあるがそれが根本的に誤りであることは、既に上述せるところによつて明瞭になつた筈であ

るが、念のために一言してをくならば、日本において上とか下とかいふ言葉を使ふのが差別的でいけないといふならば「上御一人」といふ言葉をどうするか、又「君臣の別」は日本國體にとつて最も大切な大義であるが、君臣の別とは君と臣との差別の道のことである。まさか如何なる人間でも、それが日本人である限り、君と臣との差別の稱を悪いといふものは唯の一人もゐないであらう。輕薄なる猪小才子達が、猥りに平等の相に拘泥し、猥りに差別を無視するが如きは、所謂外道の業といはねばならぬ吾々は、輕卒なる才子流が徒らに一知半解の國體論を振り廻すことの弊害を除くために、大いに努力しなければならぬ。

一〇 新體制と大衆組織

獨逸のナチスが大衆組織の力によつて政權を獲得したのを見て、世人の中には、日本もやはり一つの大衆的政黨を作りその壓力によつて昭和維新を實現しなければならぬと考へフアツシヨまがひの黨員を集めて一黨を作つて見たり、政府攻撃の煽動演説で大衆を煽つて人氣を掻集めようとしてゐる人物などが存在する。

然し、眞の新體制を實現する力は、さうした輕燥性の浮薄な力であつてはならない。他國の方式を表皮的に眞似たやうな手法が排斥せられなければならぬと同時に、大地に足の附かない上りのしたチンドン屋式運動は嚴に戒しめられねばならぬ。世人の多くは輕々しく大衆々々といふが、そも／＼大衆とは何であるか。又、大衆の總意を代表するといふが大衆の總意とは何か。尙又、大衆の組織とか、大衆の力とかいふが、眞の大衆の組織とは何であるか、又大衆の眞の力とは何であるかについては、屢々輕薄な解釋が下され易いのである。

大衆は二様の性質を包蔵してゐる。そして時局の如何、或は指導者の如何により、兩様の性質を交互に、適當に發揮するのである。二様の性質とは何であるか。「徳義を愛し、徳義を支持し、徳義に追隨せんとする公共的性質」と『自己のため或は自己の所屬する團體等のためには國家公共をも平氣で蹂躪して憚らぬといふ利己的性質』とが是れである。前者を公論性又は正論性と名付け得るとするならば、後者を俗論性又は邪論性と名付け得るであらう。大衆は常にこの二面性を兼ね藏するものである。随つて大衆の總意とか、大衆の代表とか稱する場合には、吾々はその何れを指してゐるのかを、まづ瞭にしてかゝら

ねばならない。大衆の組織と云つても、その何れの性格を基礎としての組織であるのかを瞭にしなければ、それが眞正の大衆組織であるか、邪道に陥れる大衆組織であるかが瞭にならない。嘗ての社會主義運動などは殆んど全部が茲にいふところの邪道的、俗論的大衆組織であり、邪道的、俗論的に大衆の意欲を代表せるものであつたに過ぎないことは、讀者の既に知悉せらるゝところである。それならばこそ、從來の社會運動は國難と共に消散してしまつたのである。随つて所謂大衆の力なるものも、それが大衆の俗情を基礎とせる邪道的力であつた場合には、決して眞に底強い力とはなり難いものである。眞の力とは、徳義に立脚し、正論に基礎づけられた普遍性を有する道義の力でなくてはならぬ。そしてその道義の力が、大地に足のつけるものとして、現實具體の社會經濟生活を革正しつゝ、それを基盤として政治の改革に乗り出した時、眞の政治的維新が行はれるのである。足の浮いたチンドン屋的街頭運動や、街頭組織の力によつて政治の革新が行はれるのではなく、部落の經濟體制、又は工場の經濟體制等々を道義に立脚して革新しつゝ、その力の盛り上りの中から、眞に大衆の道義性と正論とを代表し得る人格者が大衆の推戴によつて政治的指導の地位についた時、そこに始めて新しい國民大衆的政治力が生れて來るのである。そ

してさうした人物が大衆と緊密に繋りつゝ、大命を拜して政府の指導的地位について時
はじめて日本の新體制は完成の時機を與へられるのである。輕燥浮薄やチンドン屋式社會
運動屋式社會運動や自稱國民運動は、國家社會の革正に役立つよりも、むしろそれを蝨毒
する場合が少くないから、お互に深く戒しむるところがなくてはならぬ。

結 語

要するに新體制とは、單に翼賛會の組織のことをいふのでもなければ、中央の新體制の
ことだけをいふのでもなく、地方の部落會や町内會だけのことをいふのでもない。日本全
體、全日本國民の社會的、經濟的、政治的全生活の精神と形態との全面的再建のことを總
稱するのである。又翼賛運動とは翼賛會の役員達の活動のみをいふのでもなければ、上か
らの命令に従順に追隨することだけをいふのでもない。眞の新體制を實現するための眞の
翼賛運動は、國民の各自が、官民の全てが、夫々自己の職分乃至職域を通じ、自己の生
活、自己の所屬する組合、自己の所屬する團體又は地域等を通じて、自由主義的、個人主
義的、利己主義的舊體制を自ら打破し、進んで愛國的、協同體的、計畫經濟的新體制を身

邊に建設し、それによつて、まづ生産の増大と配給の合理化と消費の節約とを計るため
に、己れの誠を國に捧げることではなくてはならぬ。

『新體制は脚下から』。是れが筆者の日本國民に贈るスローガンである。

（「國民建設」昭和十五年十二月號所載）

昭和十五年十二月十七日 印刷
昭和十五年十二月廿三日 發行

新體制の本義と實踐

定價金五十錢

著者 緋田 工

發行者 上野 豪彦

印刷者 横山 喜助

東京市神田區美土代町二二

東京市神田區淡路町二ノ七

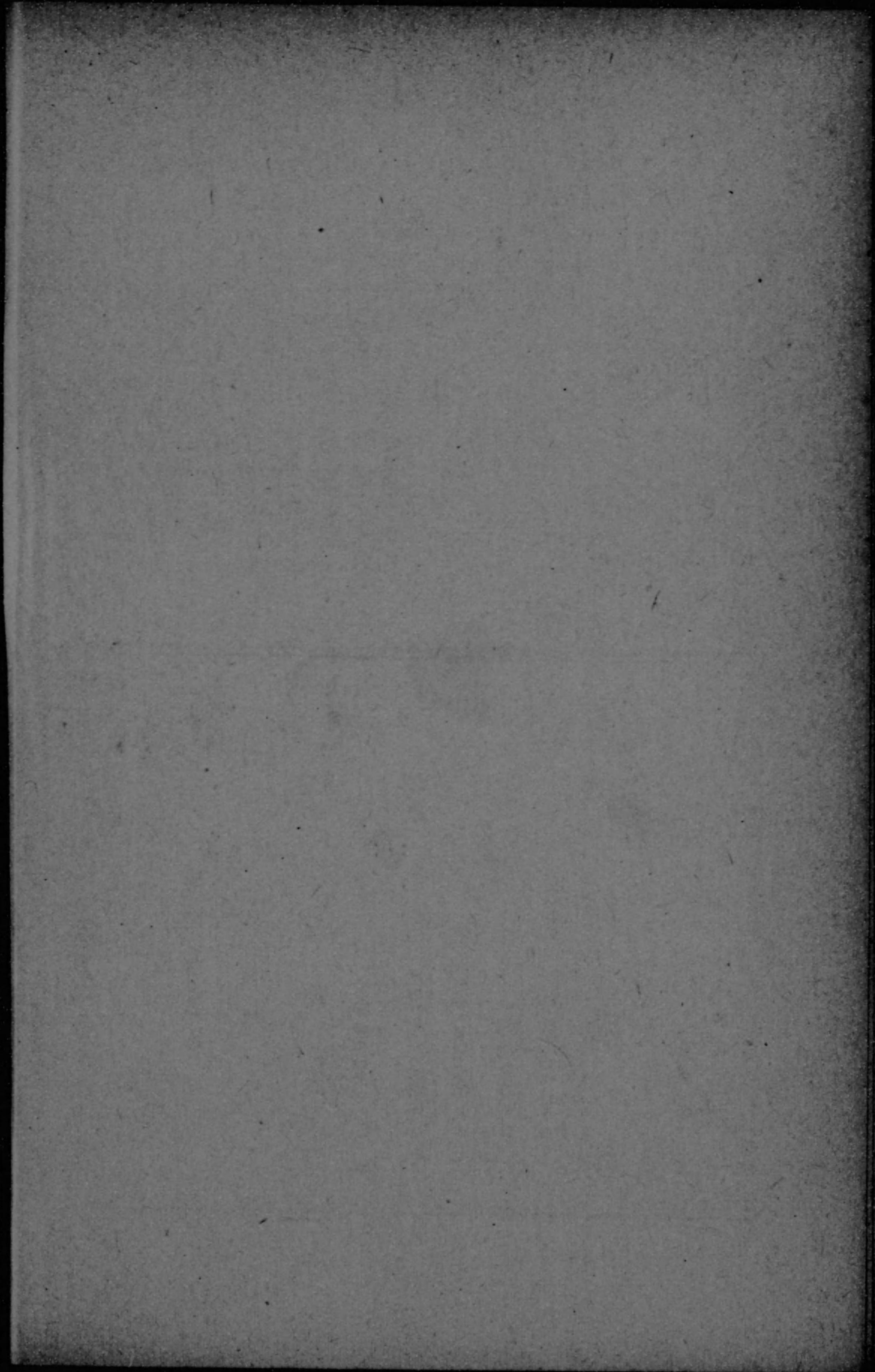
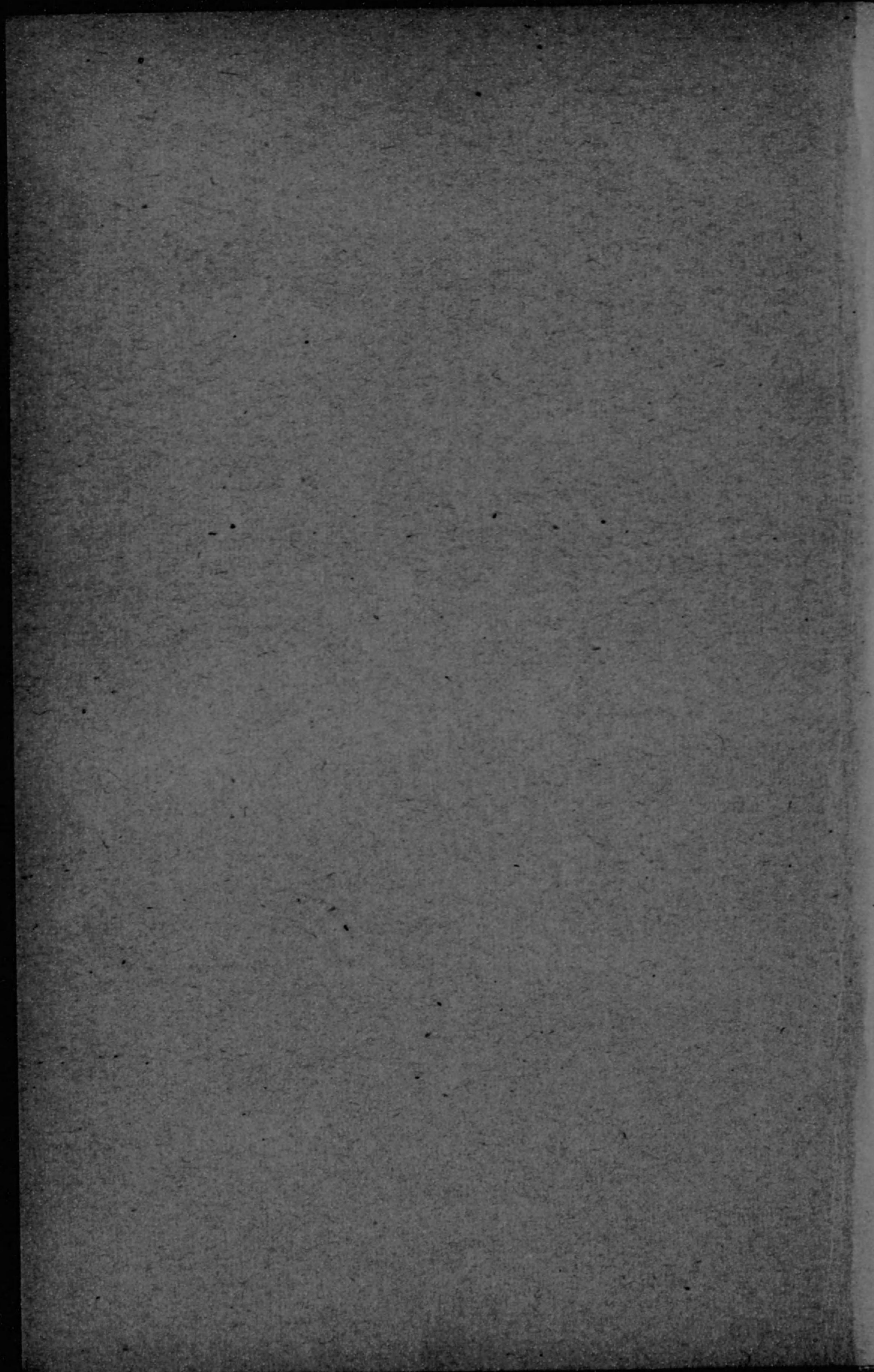
東京市神田區淡路町二ノ七

發行所 新光閣

振替東京一三二〇一七番

電話神田 二〇一〇番

二〇一一番





f

783
405



